

滋賀県災害誌 第3部

1978年～1987年
(昭和53年～昭和62年)

滋 賀 県

滋賀県災害誌

第3部の発刊にあたって

この滋賀県災害誌第3部は、昭和41年3月に発刊しました滋賀県災害誌、昭和54年8月に発刊しました滋賀県災害誌続編のあとを補うため、昭和53年から昭和62年までに滋賀県下で発生した自然災害の概要とその被害状況を各種の資料をもとに取りまとめたものです。

昭和53年以降におきましても、県下では、毎年のように風水害や雪害が発生しており、県民生活に与えた影響は、はかり知れないものがありました。

幸い、近年地震による大きな被害はありませんが、本県は、地震予知連絡会により地震の特定観測地域に指定されており、また、歴史的に見ても地震発生の可能性の高い地域とされています。

このような現状におきまして、災害による被害を最小限に食い止め、住民の生命、身体、財産を守るには、各種防災施設の整備充実や災害危険箇所の実態の把握とその対策など、防災体制の確立が不可欠であります。そのためにも過去の災害の教訓を生かし、また、これにより防災意識の高揚をはかる必要があります。

関係各位におかれましては、この災害誌を今後における防災対策の資料としてご活用いただければ幸いと存じます。

なお、本誌の発刊に際し協力頂きました皆様方には、厚く御礼申し上げます。

平成2年2月28日

滋賀県生活環境部長 前川利夫

目次

年次	月 日	災 害 名	掲 載 ページ	人 的 被 害			住 宅	
				死 者	行 方 不 明	負 傷 者	全 壊	半 壊
53	6月22日～23日	停滞前線豪雨	7					
	8月7日～8日	雷 雨	10					
	7月～8月	異常乾燥	11					
	9月15日～16日	台風18号	3					
54	3月30日～4月8日	強 風	30					
	4月18日	晩 霜	28					
	5月14日～15日	強風および 大雨	22					1
	5月26日	降ひょう	29					
	6月27日～7月2日	停滞前線豪雨	24					
	9月30日～10月1日	台風16号	15			5	9	29
	10月18日～19日	台風20号	19			1		7
55	5月31日～6月1日	前線豪雨	34					
	7月6日～12日	梅雨前線豪雨	36					
	7月23日～24日	前線豪雨	39					
	8月19日～20日	大 雨	42					
	8月22日	大 雨	43					
	8月26日～27日	豪 雨	45					
	7月下旬～9月上旬	冷 夏	50					
	11月21日～22日	大 雨	48					

被 害 (棟)			被 害 金 額 (千円)					
一 部 損 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	農林水産 施 設	土 木 施 設	文 教 施 設	その他公共 施 設	そ の 他	総 額
		16	84,700	1,731,717			3,600	1,820,017
		21	708					708
							1,137,425	1,137,425
	1	24	81,000	667,849			2,290	751,139
			41,314				3,138	44,452
							72,900	72,900
			51,664			1,300	177,746	230,710
			852				9,130	9,982
1	2	88	223,780	2,308,845			51,108	2,583,733
3,005	2	20	394,578	346,900	30,020	87,280	2,455,656	3,314,434
12			6,946	5,300	3,240	2,720	115,962	134,168
				489,182				489,182
1			180,300	381,770			1,275	563,345
4	1	279	63,000	1,909,940	3,180		5,510	1,981,630
			12,000					12,000
			3,000					3,000
1	19	1,182	258,000	1,289,550	2,100	400	33,880	1,583,930
							7,510,324	7,510,324
				98,500				98,500

年次	月日	災害名	掲載ページ	人的被害			住宅	
				死者	行方不明	負傷者	全壊	半壊
56	1月～2月	豪雪	72	5		91	14	65
	2月26日～28日	異常低温	85					
	5月31日	降ひょう	84					
	6月26日～27日	大雨	56					
	7月2日～3日	梅雨前線豪雨	57					
	7月9日	梅雨前線豪雨	59					
	7月11日～13日	豪雨	61					
	7月16日	集中豪雨	63					
	7月21日	集中豪雨	64					
	8月12日	集中豪雨	66					
	9月4日	梅雨前線豪雨	68					
	10月8日～9日	豪雨	69					
	10月21日～22日	台風24号	53					
	11月2日	強風	85					
	12月2日～3日	大雪	79					
	12月13日～15日	大雪	81					
57	2月12日～13日	融雪	108					
	4月9日～10日	強風	111					
	4月13日	降ひょう	110					
	6月	干害	109					

被 害 (棟)			被 害 金 額 (千円)					
一 部 損 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	農林水産 施 設	土木施設	文教施設	その他公共 施 設	そ の 他	総 額
4,112		558	388,294	253,039	780,308	489,001	3,840,159	5,750,801
					6,988	13,421	157,710	178,119
			787				7,960	8,747
			16,000					16,000
		11	5,000					5,000
		3	10,000	134,288				144,288
			1,000	13,882				14,882
			17,000					17,000
	26	763	5,000					5,000
		89	13,000					13,000
				22,246				22,246
	6	121	113,000	1,542,177			10,060	1,665,237
							70	70
							14,084	14,084
							29,857	29,857
391		3				3,480	1,568,483	1,571,963
			14,911					14,911
				215,000			3,200	218,200
							184	184
							32,793	32,793

年次	月 日	災 害 名	掲 載 ページ	人 的 被 害			住 宅	
				死 者	行 方 不 明	負 傷 者	全 壊	半 壊
57	6月19日	落 雷	111					
	7月16日～17日	豪 雨	102					
	7月24日～25日	豪 雨	104					
	7月29日	豪 雨	106					
	8月1日～2日	台風10号	89				2	1
	8月27日	台風13号	94					
	9月12日	台風18号	96					
	9月24日～25日	台風19号	99			1		
	11月29日～30日	突 風	111					
58	1月22日	大 雪	125					
	2月18日	強 風	128					
	4月1日	強風雨	120					
	6月	干 害	127					
	6月20日～21日	大 雨	122					
	8月16日～17日	台風5号	115					
	9月27日～28日	台風10号	117					
59	1月～3月	豪 雪	138			26	4	3
	6月26日～27日	梅雨前線大雨	131					
	7月20日～21日	集中豪雨	134					
60	1月1日～2月3日	雪 害	159			12		

年次	月 日	災 害 名	掲 載 ページ	人 的 被 害			住 宅	
				死 者	行 方 不 明	負 傷 者	全 壊	半 壊
60	4月3日～4日	豪 雨	151					
	6月21日～7月19日	台風6号と 梅雨前線豪雨	153				5	3
	8月～9月上旬	干 害	164					
	9月6日	ひょう害	165					
	12月中旬	雪 害	162					
61	1月1日～2月15日	雪 害	176			1		
	3月22日～24日	大 雨	169					
	4月17日	霜 害	180					
	5月29日～30日	風 害	182					
	6月15日～7月10日	冷 害	182					
	6月16日～7月23日	梅雨前線豪雨	170					
	8月1日～9月30日	干 害	181					
	12月19日～28日	風 害	182					
62	1月中旬	大 雪	197					
	2月4日	風 害	201					
	3月8日	雪 害	198					
	4月14日～15日	霜 害	200					
	4月下旬～5月初旬	霜 害	200					
	7月14日～21日	梅雨前線豪雨	189	1				
	7月31日～8月1日	集中豪雨	194					

被害 (棟)			被害金額 (千円)					
一部損壊	床上浸水	床下浸水	農林水産施設	土木施設	文教施設	その他公共施設	その他	総額
				27,704				27,704
7	15	201	753,887	4,375,436		333,218	514,614.5	5,977,155.5
							225,320.5	225,320.5
							880	880
			31,749				5,788	37,537
45		4						
							2,700	2,700
							21,929	21,929
							802	802
3	8	425		10,965,700		28,910	54,747	11,049,357
							44,271	44,271
							366	366
							14,229	14,229
							35	35
							140	140
							8,560	8,560
							140	140
2	13	766	85,010	1,707,116			15,827	1,807,953
			75,000					75,000

年次	月日	災害名	掲載ページ	人的被害			住宅	
				死者	行方不明	負傷者	全壊	半壊
62	8月9日	雷害	201					
	8月12日～13日	豪雨	195					
	10月16日～17日	台風19号	185					1
	資料編							

昭和53年(1978年)の気象概況

昨年12月から本年1月下旬までは、暖冬であったが、月末から2月上旬にかけて一時冬型の気圧配置が強まり本県北部では風雪が強まった。

その後は短い周期で天気の変化があり時々低気圧が北海道の東方海上で発達し、寒の戻りがあって寒い春となった。

晩春から初夏にかけては高気圧におおわれる日が多く、温暖な天候となったが、全体として雨は少なかった。

今年の梅雨は雨が少なく梅雨明けは早かった。その後太平洋高気圧・チベット高気圧が発達し、それが持続して暑く長い夏となった。

秋から年末にかけても暖かい晴れの日が多くしのぎやすい天候が続いた。

1. 台 風

(1) 台風の概況

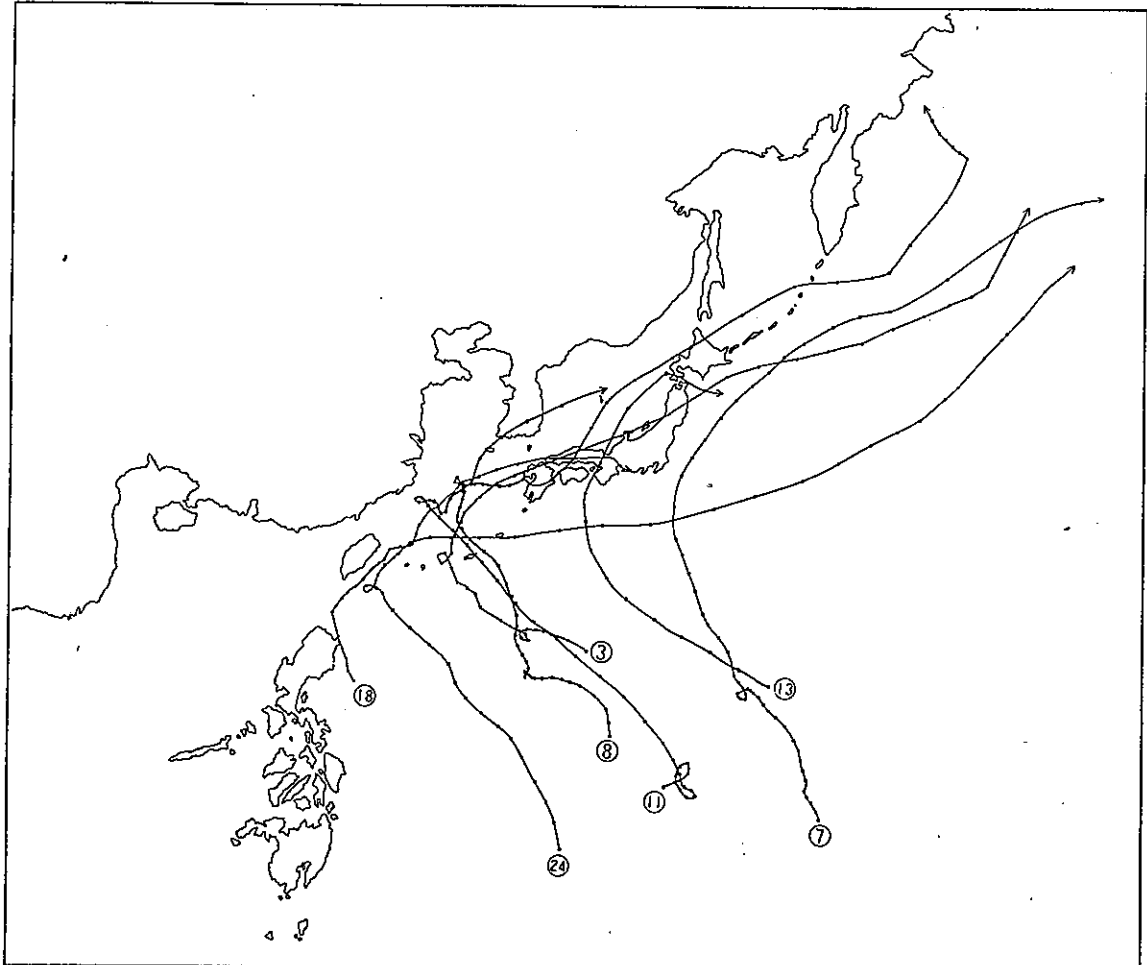
本年、日本付近で発生した台風は30個であった。

そのうち、日本に上陸したものは、3号、8号、13号、18号の4個であったが、いずれも、日本に接近したときは弱まっており、特に大きな被害はなく、本県に被害をもたらした台風も18号のみであった。

本年に発生した台風の進路の特徴は、発生初期やその進路の途中で孤を描いて停滞するものが多かった。

なお、日本に影響を与えた台風の進路は、次の通りである。

【日本に影響のあった台風の経路】



【主要な台風の概要】

台風番号	3号	8号	11号	18号	24号
最低気圧 (mb)	992.8	963.0	966.5	979.2	966.7
最大風速(m/秒)	22.0	27.5	24.3	26.6	32.1

(2) 災害の状況

台風18号(9月15日から16日)

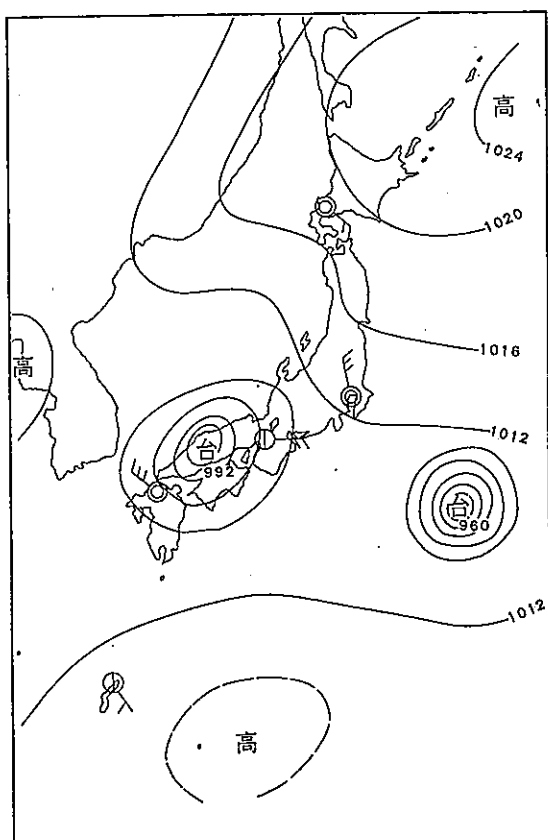
ア. 気象の概要

9日午前9時にルソン島の東北海上に発生した台風18号は、東シナ海を北上した後、九州の北方海上を経て15日の午前3時には中心気圧が970mb、最大瞬間風速が毎秒35mとなり「中型で並の強さの台風」となった。

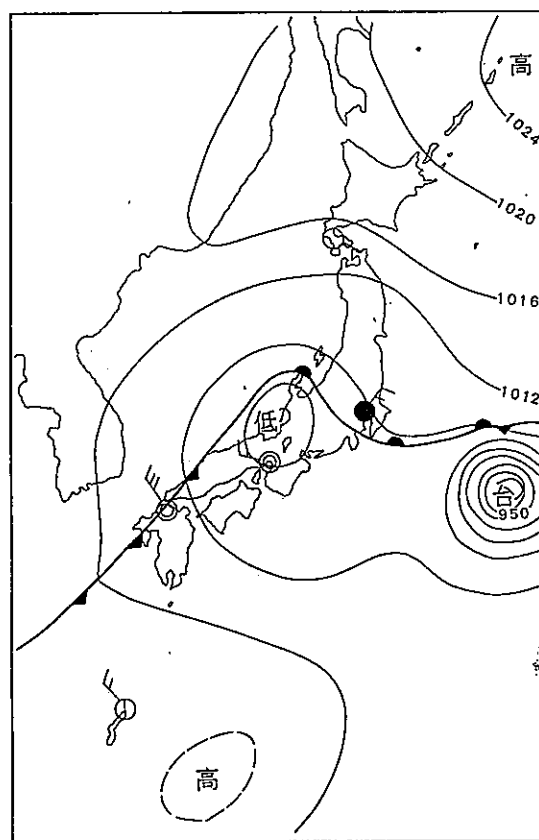
その後、進路を北東に変え、やや速度を速めながら中国、近畿地方に向かうコースをとった。15日の正午には、九州北部をかすめた後、同日午後4時過ぎに山口県下関市の北方に上陸した。

そして勢力を弱めながら、向きを東寄りにかえ、琵琶湖北部をかすめ若狭湾に達し、16日午前4時に熱帯低気圧となった。

【9月15日午後9時の天気図】



【9月16日午前9時の天気図】



イ. 降雨の状況

台風が本県の北方を通過したため、湖西地方では、16日午前0時頃には暴風雨圏に入り、その後、台風が最も近づいた午前2時から3時にかけては一段と風雨が強まった。

16日の総雨量は、朽木村荒川で125mm、志賀町北小松で92mm、今津町で72mmを記録した。特に、午前3時から4時にかけて朽木村荒川においては、時間雨量が51mmを記録した。

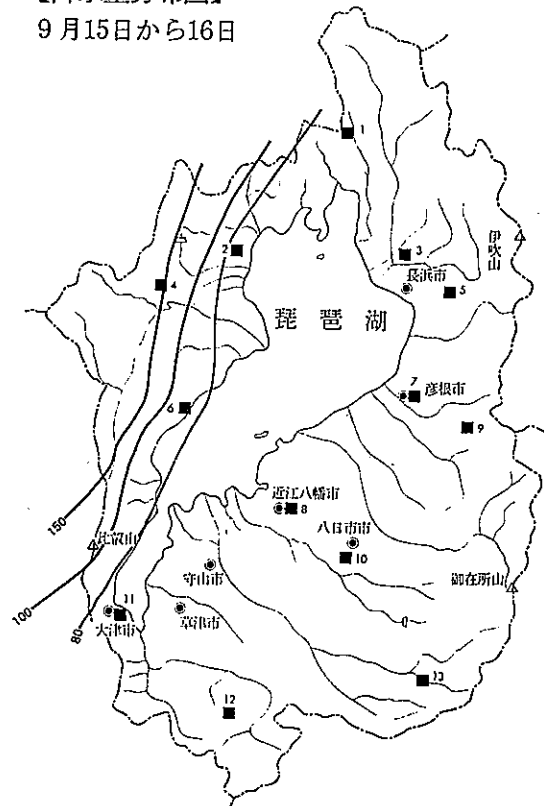
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	15日	16日
1	柳ヶ瀬	—	53
2	今津	1	78
3	虎姫	1	29
4	荒川	5	125
5	春照	1	40
6	北小松	1	92
7	彦根	—	42
8	近江八幡	—	31
9	霜ヶ原	3	42
10	蒲生	1	19
11	大津	—	—
12	信楽	1	12
13	土山	8	18

【降水量分布図】

9月15日から16日



ウ. 出水の状況

大津土木事務所管内、今津土木事務所管内の山間部においては、16日午前3時から4時にかけて時間雨量が40mmを超える大雨となったため、河川は急激に増水し、16日午前4時から5時にはほとんどの河川で警戒水位を突破した。

【主要河川水位表】

河川名	観測所		警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
真野川	大津市	真野川橋	1.50	1.70	16日午前5時
和邇川	志賀町	和邇川橋	1.50	1.70	16日午前5時
安曇川	安曇川町	常安橋	1.50	1.80	16日午前8時
石田川	今津町	弘川	1.80	2.00	16日午前5時
鴨川	高島町	天皇橋	2.00	2.20	16日午前4時

エ. 気象官署のとした処置

(ア) 予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
風雨注意報	15日午後4時15分	切替
大雨洪水強風注意報	15日午後8時50分	警報に切替
大雨洪水警報	16日午前1時	16日午前5時30分

(イ) 気象情報

台風に関する情報	第1号	15日午後6時30分
台風に関する情報	第2号	15日午後10時40分
台風に関する情報	第3号	16日午前5時

オ. 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	15日午後4時15分	2号体制に切替
第2号警戒体制	16日午前1時	16日午前5時30分

カ. 被害の状況

(ア) 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村
住家 床上浸水	1	1	4	大津市
住家 床下浸水	24	24	78	朽木村

(イ) 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	被 災 市 町 村
道 路	14	大津土木管内(8), 今津土木管内(6)
橋りょう	2	大津土木管内
河 川	47	大津土木管内(19), 今津土木管内(28)
砂 防	18	大津土木管内

(エ) 被害金額

名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	81,000
公共土木施設	667,849
< 小 計 >	748,849
農 業 被 害	2,290
< 被 害 総 額 >	751,139

(ウ) り災者数・り災世帯数

世 帯	人	被災市町村
1	4	水口町

2. 豪 雨

(1) 豪雨の状況

梅雨が短い期間で終わったため、大きな豪雨災害は少なかったが、気圧の谷の通過により小規模な集中豪雨が各地で発生した。

なお、西日本での主な集中豪雨は、次の通りである。

月 日	場 所	主 な 原 因
6月10日から11日	九州地方北部及び山口県	10日夜から11日朝にかけ、九州北部を横断していた梅雨前線が11日午後に南下したため。
6月13日	岡山県井原市	日本海の低気圧に向い暖温な気流が大量に流入したため。
6月21日から28日	九州地方南部及び西部	日本海にあった梅雨前線が21日から南下しはじめ、22日から23日にかけては本州南岸沿いに停滞した。その後、同前線は24日の午後からは北上を始め、25日の夜から27日にかけては、新潟県付近に停滞したため。

停滞前線豪雨(6月22日から23日)

(2) 災害の状況

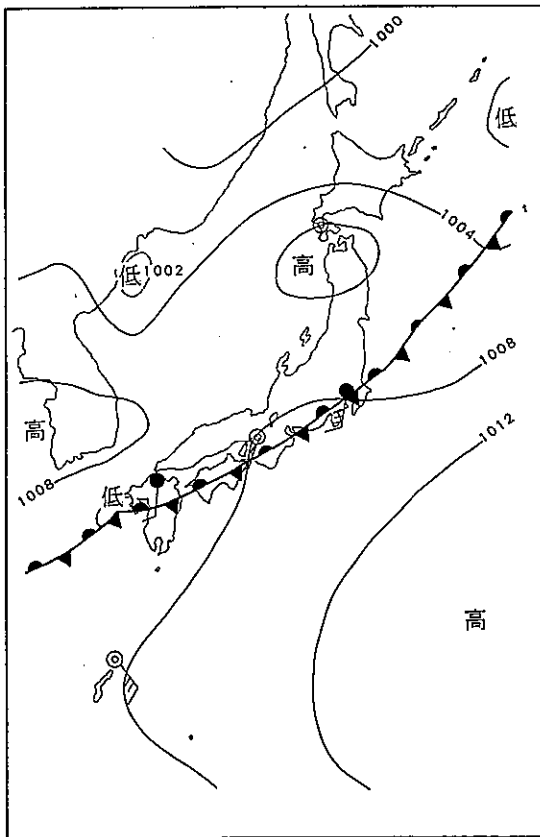
ア. 停滞前線豪雨(6月22日から23日)

(ア) 気象の概要

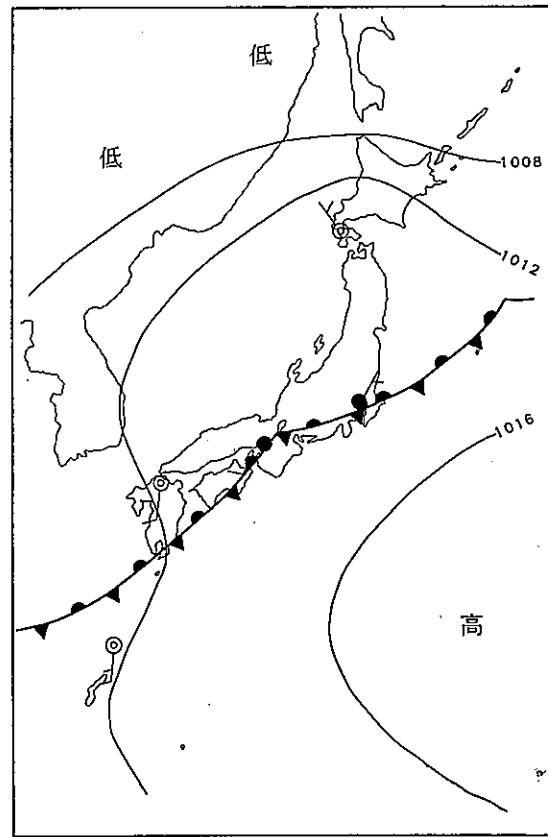
台風3号が衰弱した温帯低気圧が山陰沿岸から佐渡ヶ島付近を通して、北海道の東海上に去った後、この低気圧から南西に延びる前線が本州南岸沿いに停滞した。この停滞前線(梅雨前線)は、21日夕刻東シナ海にあらわれた低気圧の東進につれ、次第に活動が活発となり、22日から24日にかけて四国南東部から近畿地方で150mmから300mmの豪雨をもたらした。

本県においても、北部では100mm前後、南部では150mm程度の豪雨となった。

【6月22日午前9時の天気図】



【6月23日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

湖北地方の山間部、湖西地方から大津市、さらに湖南、甲賀地方が主な豪雨域となった。

22日の総雨量は、朽木村荒川で97mm、余呉町柳ヶ瀬で88mm、今津町で87mmを記録し、23日の総雨量は、信楽町で109mm、土山町で88mm、蒲生町で78mmを記録した。

最大時間雨量は、20mmから30mm程度の強さであった。

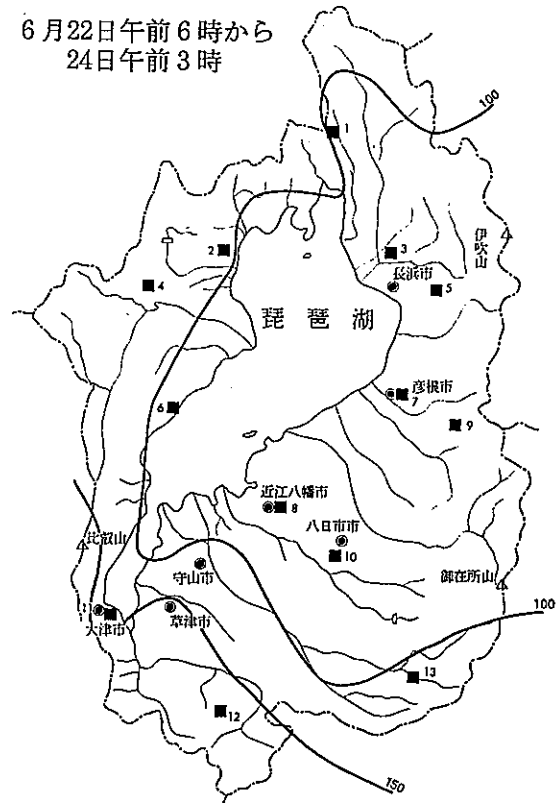
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	22日	23日
1	柳ヶ瀬	15	7
2	今津	88	20
3	虎姫	87	10
4	荒川	29	10
5	春照	97	16
6	北小松	84	82
7	彦根	63	35
8	近江八幡	51	35
9	霜ヶ原	51	56
10	蒲生	29	56
11	大津	44	78
12	信楽	39	109
13	土山	23	88

【降水量分布図】

6月22日午前6時から
24日午前3時



(ウ) 出水の状況

河川の水位のピークは大津、木之本、今津土木事務所管内では22日正午から午後5時頃、水口土木事務所管内では23日午前9時から11時頃、草津土木事務所管内では23日午後8時から9時頃であった。

主な河川の最高水位とその起時及び警戒水位は次の通りである。

【主要河川水位表】

河川名	観測所		警戒水位(m)	最高水位(m)	日 時
草津川	草津市	旭橋	0.80	1.40	22日午後9時
和邇川	志賀町	和邇川橋	1.50	1.60	23日午後5時
大戸川	信楽町	旭橋上流右岸	2.30	2.40	23日午前9時
石田川	今津町	弘川	1.80	2.00	22日午前12時
大川	西浅井町	岩能橋	1.20	1.50	22日午前12時

(エ) 気象官署のとした措置

a. 予警報の発令状況 (全域)

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水注意報	22日午前9時10分	22日午後11時30分
大雨洪水注意報	23日午前6時30分	警報に切替
大雨洪水警報	23日午前9時50分	23日午後6時
大雨洪水注意報	23日午後8時10分	24日午前5時30分

b. 気象情報

大雨に関する情報	第1号	22日午後3時20分
----------	-----	------------

(オ) 県の対応状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	22日午前9時10分	22日午後11時30分
第1号警戒体制	23日午前6時30分	2号体制に切替
第2号警戒体制	23日午前9時50分	1号体制に切替
第1号警戒体制	23日午後8時10分	24日午前5時30分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村 (棟,世帯,人)
床下浸水	16	16	61	草津町(2,2,4),甲南町(5,5,20),今津町(2,2,7),安曇川町(7,7,30)
非住家 公共建物	1			今津町

b. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	被 災 市 町 村
道 路	35	大津土木管内(14),草津土木管内(3),水口土木管内(6),木之本土木管内(10),今津土木管内(2)
橋りょう	2	大津土木管内(1),水口土木管内(1)
河 川	279	大津土木管内(74),草津土木管内(47),水口土木管内(91),木之本土木管内(42),今津土木管内(25)
砂 防	21	大津土木管内(10),水口土木管内(2),木之本土木管内(5),今津土木管内(4)

c. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	84,700
公共土木施設	1,731,717
< 小 計 >	1,816,417
農 産 被 害	3,600
<< 被 害 総 額 >>	1,820,017

雷雨(8月7日から8日)

イ. 雷雨(8月7日から8日)

(ア) 気象の概要

太平洋高気圧におおわれていた上空に、寒気が流れ込み大気が不安定な状態となり雷雲が発生し、局地的に強雨となった。

(イ) 降雨の状況

蒲生町において、7日午後5時から6時にかけて51mmの降水量を記録した。

(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
雷雨注意報	7日午後2時35分	7日午後7時30分

(エ) 被害の状況

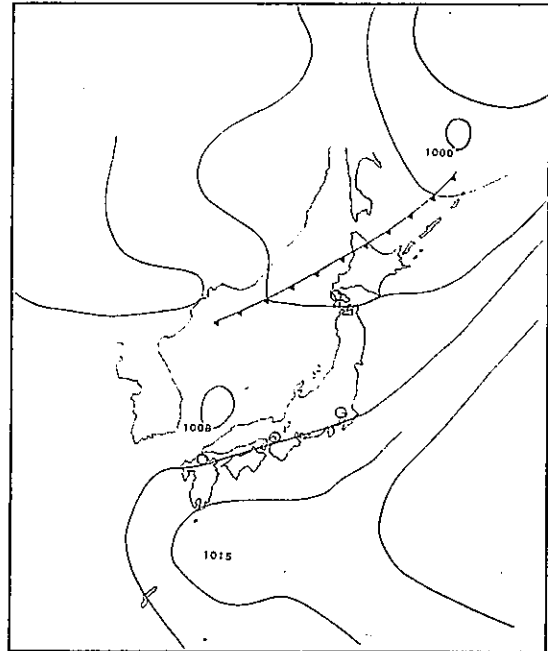
a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被災市町村
床下浸水	21	21	63	水口町

b. 被害金額

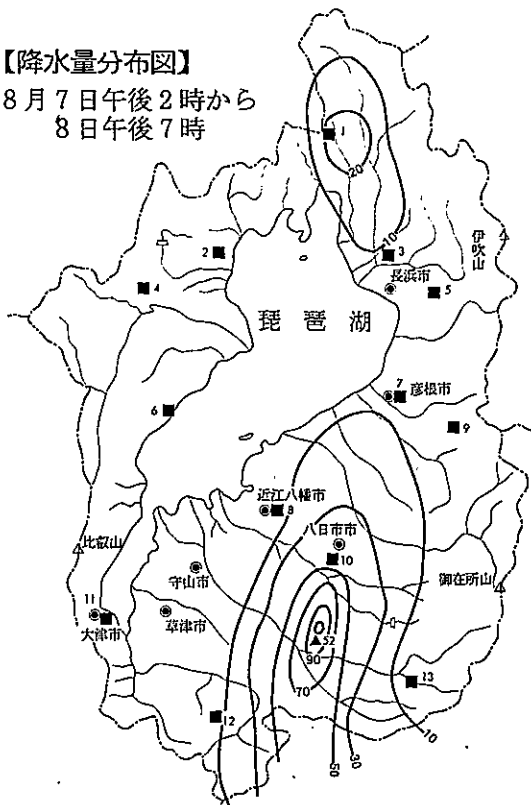
名 称	金 額(千円)
農林水産業施設	708
《 被害総額 》	708

【8月7日午前9時の天気図】



【降水量分布図】

8月7日午後2時から
8日午後7時



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	7日	8日
1	柳ヶ瀬	18	3
2	今津	—	—
3	虎姫	11	8
4	荒川	6	—
5	春照	—	—
6	北小松	—	—
7	彦根	9	—
8	近江八幡	1	—
9	霜ヶ原	4	—
10	蒲生	51	—
11	大津	—	—
12	信楽	6	24
13	土山	8	33

3. 干 害

(1) 概 況

春から秋にかけてほぼ全国的に高温・多照・少雨の状態が続き、梅雨明けも7月3日で例年よりも早かったため、西日本では、雨量が平年に比べると10%から40%と少なく、各地で干害等の被害が生じた。

(2) 災害の状況

異常乾燥(7月から8月)

ア. 気象の概要

台風が衰弱した低気圧や、停滞前線の活発化による降雨はあったものの、太平洋高気圧が非常な勢力を強め、連日、日本列島の上空をおおったため、7月から9月前半までは記録的な異常高温と干ばつが続いた。

本県では、琵琶湖の水位や河川の水位の低下で取水が困難となり、水不足による水稻の減収、野菜・茶樹・果樹など生育不良や枯死が生じた。また、一部地域では、飲料水が不足し、給水車が出動した。

【琵琶湖の水位の状況】

月日	水位 cm	月日	水位 cm	月日	水位 cm	月日	水位 cm	月日	水位 cm	月日	水位 cm
7・1	+15	8・8	-24	9・6	-47	10・16	-46	11・12	-62	11・30	-64
7・9	+13	8・9	-20	9・7	-50	10・21	-58	11・15	-62		
7・10	+18	8・17	-34	9・8	-48	10・22	-54	11・16	-56		
7・12	+12	8・18	-30	9・16	-55	10・29	-60	11・17	-66		
7・13	+14	9・3	-54	9・17	-46	10・31	-57	11・28	-64		
7・24	0	9・5	-50	10・15	-51	11・11	-65	11・29	-73		

注：11月29日水位-73cm最低となる。但し風による影響が見られる。

危険水位を脱したのは1979年1月31日であった。(-48cm)

水位がプラスに転じたのは1979年5月1日であった。(+ 2 cm)

イ. 気象官署のとした処置

(ア) 予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
異常乾燥注意報	29日午後4時	8月2日午後3時40分

ウ. 県の対策状況

異常渇水対策本部設置：8月16日

企画部水政課

エ. 被害の状況

被害金額

名 称	金 額 (千円)
農 産 被 害	969,883
林 産 被 害	167,542
《 被 害 総 額 》	1,137,425

昭和54年(1979年)の気象概況

昨年に引続き2月までは、高気圧におおわれる日が多く暖冬であった。

しかし、3月に入ると本州上を短い周期で高・低気圧が通過するようになり、暖冬から一転した2年続きの寒い春となり雪の日もあった。4月も低気圧がしばしば通過するなど不安定な日が多く遅い春となった。その後5月になると、移動性高気圧におおわれた晴天の日も多くなり、急速に暖かくなった。

6月上旬には梅雨前線が現われ、平年より早い梅雨入りとなったが、移動性高気圧におおわれる日も多く、梅雨も中休みの状態となった。その後、6月下旬から7月上旬にかけては梅雨前線が本州上に停滞するようになり、西日本に大雨を降らすなど平年より遅い梅雨明けとなった。また、その後は、太平洋高気圧が次第に勢力を強め、盛夏をむかえたが長続きせず、8月下旬には本州南岸に前線が停滞し秋雨模様の天候となった。

9月下旬から10月上旬にかけては日本列島に台風が接近、あるいは上陸し、特に台風16号は本県に甚大な被害をもたらした。

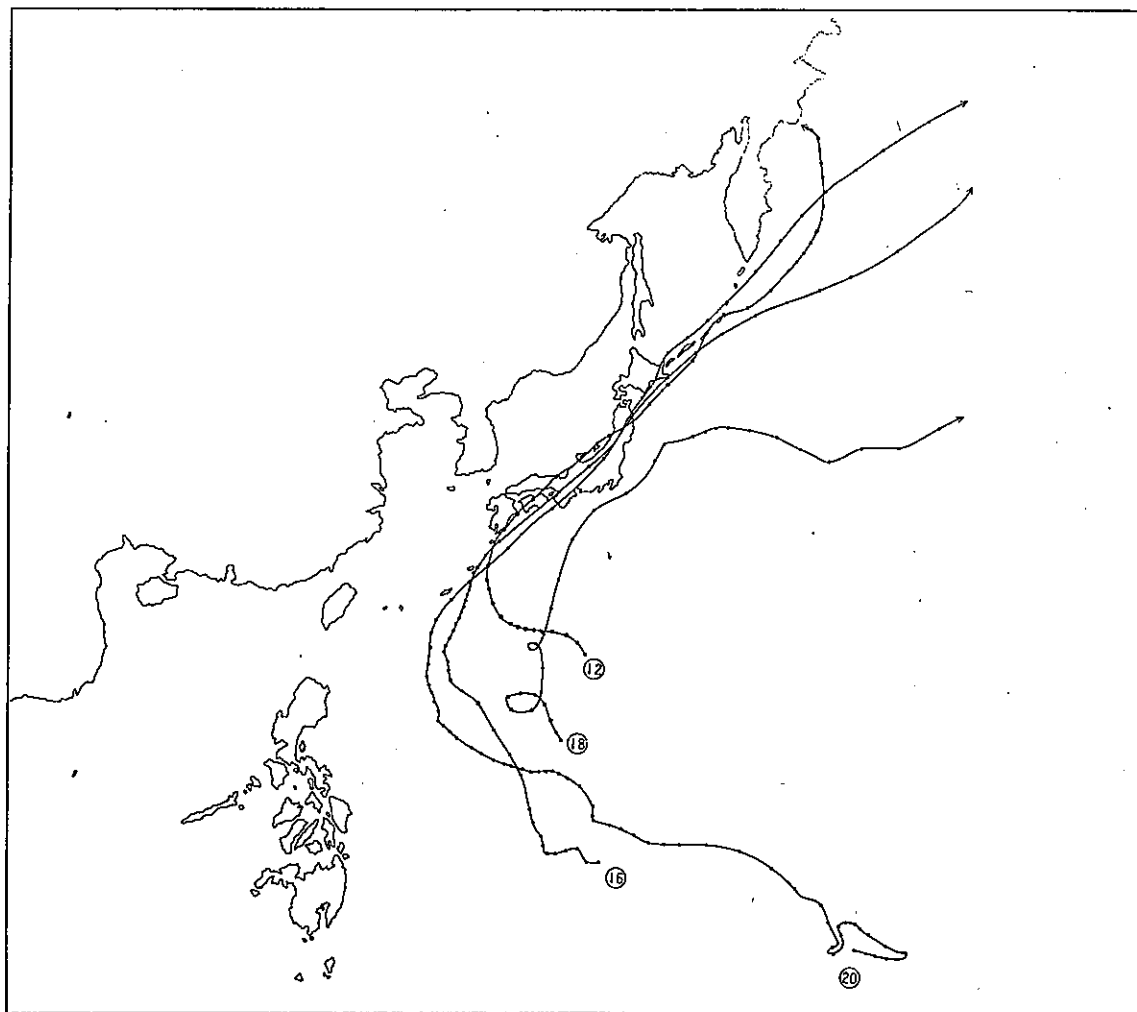
初冬から年末にかけては、移動性高気圧におおわれる日が多く、一時的に弱い冬型になり北部の山沿いでしぐれることもあったが、概して温暖な天候に恵まれた。

1. 台 風

(1) 台風の概況

本年、日本付近で発生した台風は24個で、昨年の30個に比べると少ない発生数であった。しかし、発生数の割には勢力の強い台風が多く、また、台風の進路は、沖縄付近をゆっくり北上するものが多かった。なお、本県に被害をもたらした台風は、16号と20号の2個であった。

【日本に影響のあった台風の経路】



【主要な台風の概要】

台 風 番 号	12号	16号	20号
最 低 気 圧 (mb)	989.6	953.8	959.6
最 大 風 速 (m/秒)	23.4	47.7	30.6

(2) 災害の状況

ア. 台風16号(9月30日から10月1日)

(ア) 気象の概要

台風16号は、大陸から張り出してきた高気圧と日本の東海上に中心を持つ夏の高気圧の勢力に押されて行く手をはばまれ、26日から30日の早朝にかけてはゆっくりした速度で沖縄の東海上を北上した。

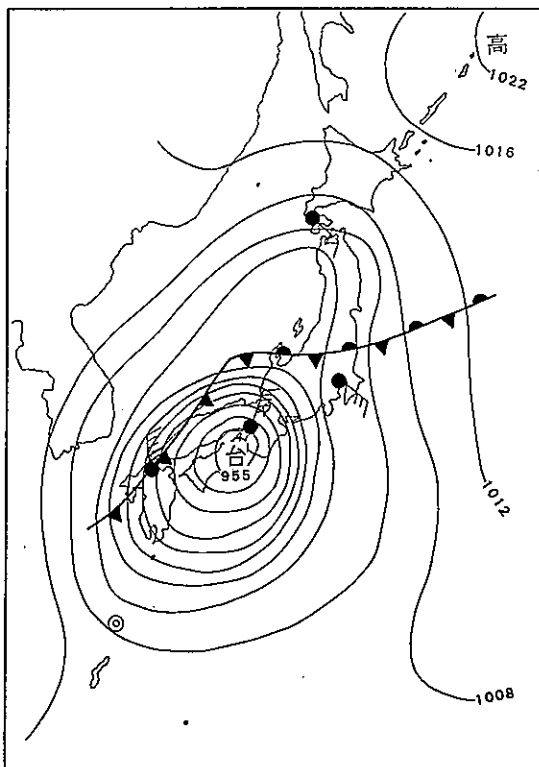
その後、30日明け方より偏西風に乗り、進路を北東に変え四国の室戸岬に向かった。そして、同日午後6時30分には室戸岬に、同日午後11時には大阪市付近に上陸し、翌1日午前0時には本県を直撃し縦断した。

過去の室戸、ジェーン、第二室戸台風の例にもみられるように本県にとっては、最悪のコースとなった。

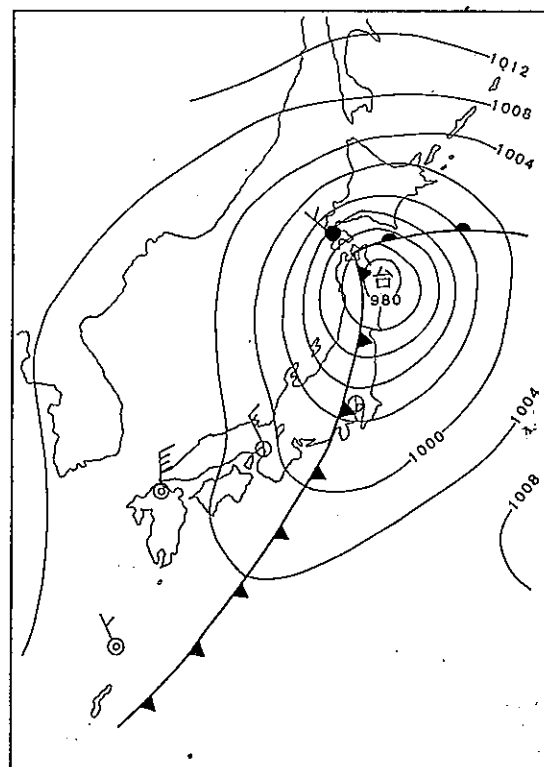
本県は湖東地方で30日の午前中から雨が降り始め、午後2時を過ぎると全県下で大雨となった。

また、台風は本県のほぼ中央部を北上したため、湖東地方など台風の東側では風による被害が多く、湖西地方など台風の西側では豪雨による被害が多くみられた。

【9月30日午後9時の天気図】



【10月1日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

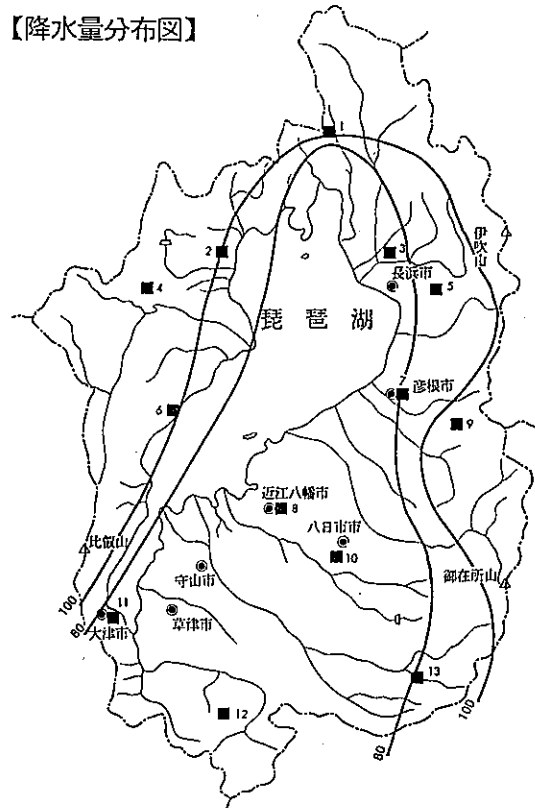
湖西、湖東、湖北地方においては、1日の総雨量が80mmを突破し、多いところでは100mm以上に達した。時間雨量も各地区で30mmを超え、多いところでは60mmに達した。

【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	30日	1日
1	柳ヶ瀬	33	58
2	今津	46	13
3	虎姫	28	9
4	荒川	65	59
5	春照	98	12
6	北小松	43	24
7	彦根	31	2
8	近江八幡	23	1
9	霜ヶ原	102	20
10	蒲生	31	12
11	大津	45	1
12	信楽	43	3
13	土山	73	3

【降水量分布図】



(ウ) 出水の状況

河川の水位は、安曇川流域を中心に警戒水位を突破したが、台風の通過とともに1日朝までには低下した。

【主要河川水位表】

河川名	観測所		警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
安曇川	朽木村	船橋	1.7	1.8	1日午前1時
余呉川	余呉町	西山橋	1.3	1.5	1日午前4時
姉川	浅井町	難波橋橋詰右岸	2.7	2.74	1日午前5時
芹川	彦根市	旭橋	1.3	1.4	1日午前3時~4時
和邇川	志賀町	和邇川橋	1.5	1.73	1日午前2時

(エ) 気象官署のとした処置

a. 予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水強風注意報	30日午後3時15分	警報に切替
暴風雨洪水警報	30日午後5時50分	注意報に切替
強風注意報	1日午前2時30分	1日午前6時30分

b. 気象情報

台風に関する情報	第1号	30日午後1時30分	台風に関する情報	第4号	30日午後10時40分
台風に関する情報	第2号	30日午後5時	台風に関する情報	第5号	1日午前0時10分
台風に関する情報	第3号	30日午後9時10分	台風に関する情報	第6号	1日午前1時30分

(オ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	30日午後3時15分	2号体制に切替
第2号警戒体制	30日午後5時50分	1日午前2時30分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村 (棟)	
軽 傷			5	彦根市(3), 甲良町(1), 安曇町(1)	
住 家 被 害	全 壊	9	6	17	米原町(3), 近江町(2), マキノ町(3), 新旭町(1)
	半 壊	29	24	81	守山市(1), 五個荘町(4), 能登川町(3), 豊郷町(1), 甲良町(3), 多賀町(1), 米原町(1), 浅井町(1), 虎姫町(2), 湖北町(1), 今津町(5), 朽木村(3), 安曇川町(3)
	一部損壊	3,005	2,452	9,403	大津市(1), 彦根市(7), 長浜市(18), 八日市市(3), 草津市(25), 志賀町(200), 栗東町(6), 信楽町(2), 安土町(4), 蒲生町(3), 五個荘町(34), 愛東町(6), 湖東町(15), 愛知川町(3), 豊郷町(22), 甲良町(47), 米原町(157), 近江町(51), 浅井町(2), 湖北町(63), びわ町(49), 高月町(13), 余呉町(3), マキノ町(53), 今津町(57), 朽木村(7), 安曇川町(913), 高島町(961), 新旭町(273)
	床上浸水	2	2	7	朽木村
	床下浸水	20	19	71	山東町(1), 近江町(1), 今津町(1), 朽木村(5), 安曇川町(11), 新旭町(1)
非住家	公共建物	41		彦根市(4), 県管理(37)	
	その他	97		彦根市(49), 志賀町(26), 安曇川町(22)	

b. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	隻	回線	被 災 市 町 村
学 校	68			大津市(14), 八日市市(1), 草津市(3), 志賀町(6), 中主町(3), 五個荘町(7), 甲良町(4), 多賀町(7), 近江町(1), 虎姫町(5), 高月町(2), マキノ町(4), 安曇川町(5), 高島町(2), 新旭町(4)
病 院	1			高島町
道 路	20			大津市(1), 栗東町(1), 高島町(1), 県管理(17)
橋 り ょ う	3			マキノ町(1), 今津町(1), 安曇町(1)
河 川	47			草津市(1), マキノ町(1), 県管理(45)
水 道	7			新旭町(1), その他県内各所
崖 く ず れ	6			今津町, 朽木村, その他県内各所
鉄 道 不 通	2			県内各所
船 舶 被 害		5		県内各所
通 信 被 害			6	県内各所

c. 被災者数・被災世帯数

世帯	人	被災市町村
32	105	—

d. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
公立文教施設	30,020
農林水産業施設	394,578
公共土木施設	346,900
その他の公共施設	87,280
< 小 計 >	858,778
農 産 被 害	1,735,945
林 産 被 害	167,050
畜 産 被 害	6,230
水 産 被 害	44,291
商 工 被 害	5,200
そ の 他	496,940
< 被 害 総 額 >	3,314,434

e. その他の状況

原 因	箇 所	規制種別
1. 異常気象時等による通行止箇所	国道306号 多賀町佐目～大君ヶ畑	通行止
	多賀醒ヶ井線 多賀町下水谷～落合	通行止
	川相永源寺線 多賀町菅原～愛東町百済寺甲	通行止
	百済寺甲線 多賀町菅原～愛東町百済寺甲	通行止
	川相永源寺線 永源寺蛭谷～箕川	通行止
2. 道路の冠水による通行止箇所	国道367号	通行止
3. 倒木による通行止箇所	国道367号 大津市葛川町居	通行止
	彦根近江八幡大津線 彦根市三津屋～薩摩町	通行止
	水谷彦根線 多賀町水谷～彦根市莊厳寺	通行止
	新海上稲葉線 彦根市新海町～本庄町	通行止
	中河内杉本線 余呉町萱並	通行止
	下鴨大津線 大津市比叡～北白川	通行止
	南小松大物線 志賀町南小松	通行止
4. 路肩欠損による通路通行止箇所	黒谷勝野線 高島町富坂～伊黒	大型車通行止
	麻生古屋梅ノ木線 朽木村能家	通行止
5. 溪流からの土砂による通行止箇所	国道365号 余呉町椿坂	通行止
	国道367号 大津市葛川細川	通行止

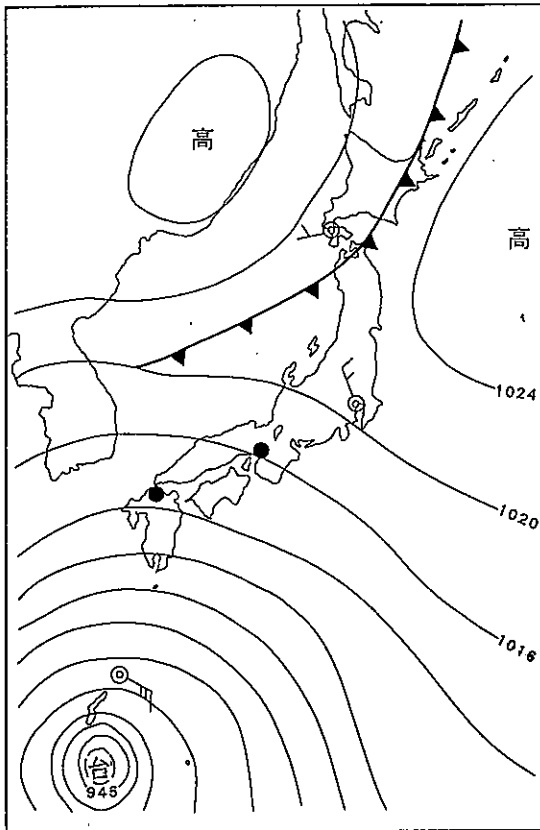
イ. 台風20号 (10月18日から10月19日)

(ア) 気象の概要

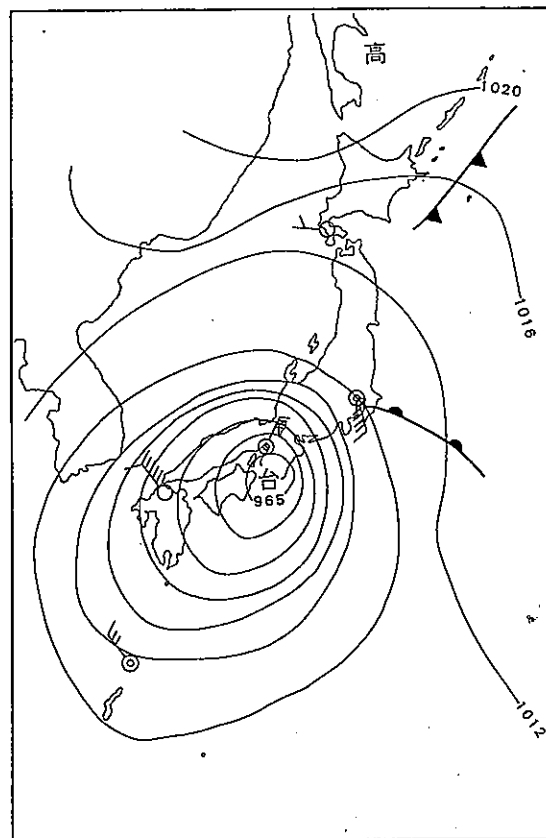
台風20号は18日午後、沖縄本島東海岸をかすめ奄美諸島を暴風雨圏に巻き込んだ後、進路をやや東寄りに変え、九州南部に接近した。

その後、台風は太平洋岸に沿って北東に進み19日には紀伊半島に上陸し、近畿地方を縦断した。本県においても19日午前8時頃から暴風雨圏に入り、山間部に局地的な雨をもたらした。

【10月18日午前9時の天気図】



【10月19日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

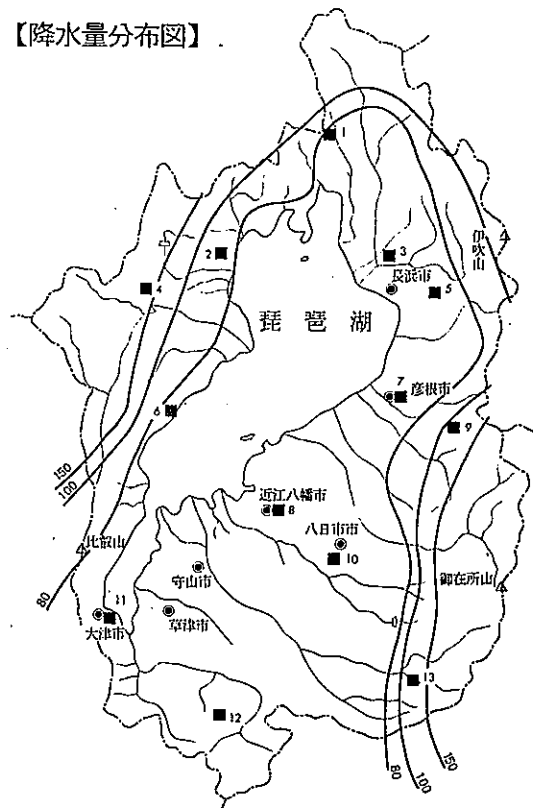
台風20号は、近畿地方を縦断したため、18日から19日にかけて山間部を中心に雨量が100mmを超えた。時間雨量も各地区で20mm前後に達した。

【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	18日	19日
1	柳ヶ瀬	27	84
2	今津	33	34
3	虎姫	24	24
4	荒川	53	111
5	春照	31	55
6	北小松	41	26
7	彦根	28	17
8	近江八幡	36	10
9	霜ヶ原	30	71
10	蒲生	42	18
11	大津	42	11
12	信楽	53	18
13	土山	59	83

【降水量分布図】



(ウ) 出水の状況

主に、山間部の河川が警戒水位を突破した。

(エ) 気象官署のとした処置

a. 予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水強風注意報	18日午後5時40分	警報に切替
暴風雨洪水警報	19日午前6時10分	注意報に切替
風雨洪水注意報	19日午後3時20分	19日午後9時50分

b. 気象情報

台風に関する情報	第1号	18日午後10時40分	台風に関する情報	第5号	19日午前10時30分
台風に関する情報	第2号	19日午前5時15分	台風に関する情報	第6号	19日午前11時30分
台風に関する情報	第3号	19日午前8時30分	台風に関する情報	第7号	19日午後12時30分
台風に関する情報	第4号	19日午前9時30分			

(オ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	18日午後5時40分	2号体制に切替
第2号警戒体制	19日午前6時10分	19日午後9時50分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟,世帯,人)
軽 傷			1	日野町
住家被害	半 壊	7	7	21 志賀町
	一部損壊	12	12	48 米原町(2,2,8), 浅井町(1,1,6), マキノ町(8,8,30), 今津町(1,1,4)
非住宅	公共建物	8		彦根市, 志賀町, 今津町
	その他	519		志賀町, 永源寺町, マキノ町

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	被災市町村 (箇所)
田 冠 水	22		今津町
その他	学 校	14	大津市(8), 志賀町(4), 余呉町(1), マキノ町(1)
	道 路	2	今津町(1), 高島町(1)
	橋りょう	1	志賀町
	清掃施設	1	守山市

d. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
公立文教施設	3,240
農林水産業施設	6,946
公共土木施設	5,300
その他の公共施設	2,720
< 小 計 >	18,206
農 産 被 害	31,462
林 産 被 害	23,400
水 産 被 害	10,500
そ の 他	50,600
< 被 害 総 額 >	134,168

c. り災者数・り災世帯数

世 帯	人	被災市町村
7	21	志賀町

強雨および大雨
(5月14日から15日)

2. 豪 雨

(1) 豪雨の状況

本年は、春における季節はずれの大雨、6月から7月にかけての梅雨前線による大雨、9月から10月にかけての台風16号と秋雨前線による大雨など多くの豪雨があった。

なお、西日本での主な集中豪雨は、次の通りである。

月 日	場 所	主 な 原 因
6月26日から7月2日	西日本各地	日本海にあった前線が南下し、27日から30日にかけて本州上に停滞したため。

(2) 災害の状況

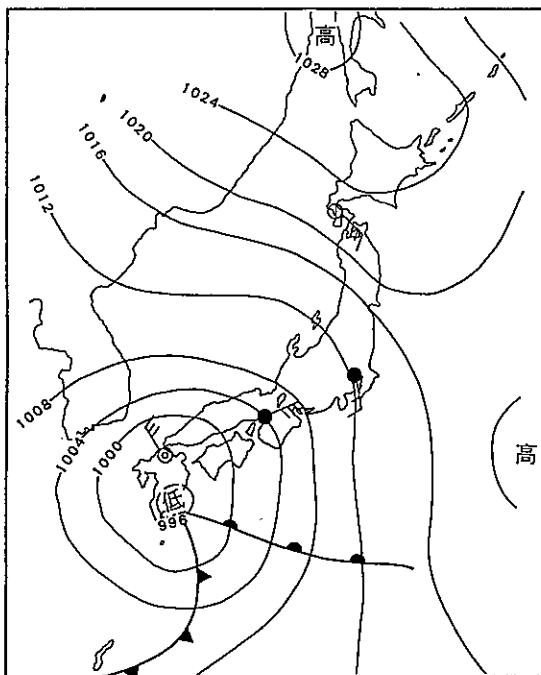
ア. 強雨および大雨 (5月14日から15日)

(ア) 気象の概況

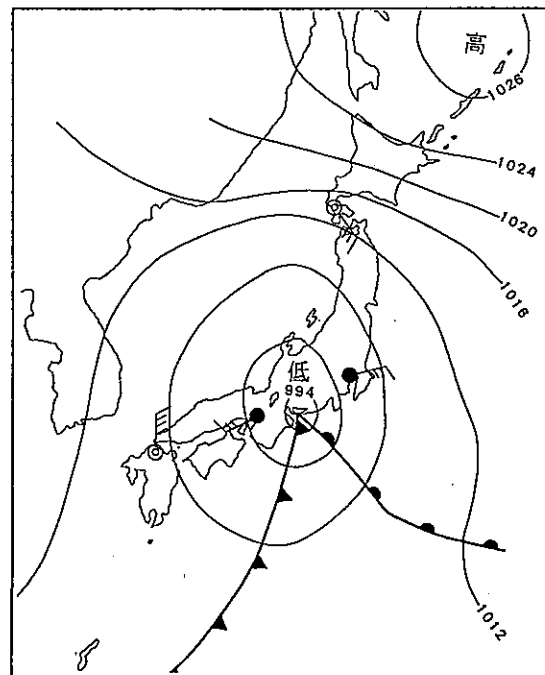
12日に高気圧が日本の東海上に進み、大陸から前線を伴った低気圧が九州に近づき、天候は下り坂に向かった。

この低気圧は、13日夜半より14日昼ごろにかけて九州地方を横断し、前線上の各地に大雨を降らせながら東へ進み、14日夕刻より夜半にかけて近畿地方を直撃したため、県下各地は強風に見舞われ夜には雷を伴った大雨となった。

【5月14日午前9時の天気図】



【5月14日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

雨は湖東地方を中心に14日午後10時から11時にかけて最も強く降り、永源寺町では時間雨量27mmとなった。

14日から15日にかけての総雨量は、西部と東部の平野部ではそれぞれ30mmから50mm、東部の山地部では50mmから80mmに達した。

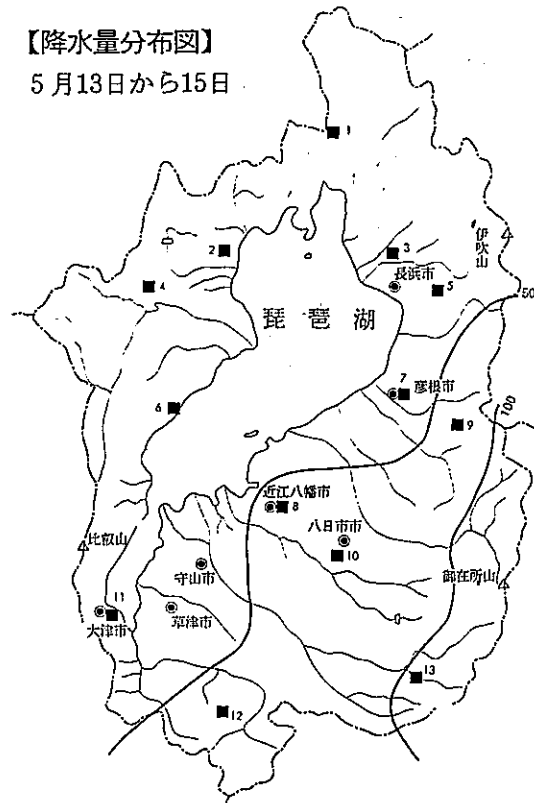
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	14日	15日
1	柳ヶ瀬	50	49
2	今津	43	6
3	虎姫	33	2
4	荒川	—	—
5	春照	59	5
6	北小松	78	1
7	彦根	41	3
8	近江八幡	46	2
9	霜ヶ原	—	—
10	蒲生	54	1
11	大津	41	1
12	信楽	61	4
13	土山	83	2

【降水量分布図】

5月13日から15日



(ウ) 出水の状況

永源寺町を中心に14日夕刻から夜半にかけ集中的な豪雨があり、蛇砂川上流では警戒水位を大きく越える増水となった。

【主要河川水位表】

河川名	観測所	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
蛇砂川	永源寺町 蛇砂川橋	0.8	1.5	14日午後11時

(エ) 気象管署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
風雨注意報	14日午前6時25分	切替
大雨雷雨注意報	14日午後10時15分	15日午前0時30分

**停滞前線豪雨
(6月27日から7月2日)**

(オ) 県の対応状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	14日午前6時25分	15日午前0時30分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村
住家 半 壊	1	1	4	永源寺町
非住家 公共建物	1			日野町

c. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	51,664
その他の公共施設	1,300
〈 小 計 〉	52,964
農 産 被 害	176,746
商 工 被 害	1,000
〈 被 害 総 額 〉	230,710

*b. り災者数・り災世帯数

世 帯	人	被災市町村
1	4	永源寺町

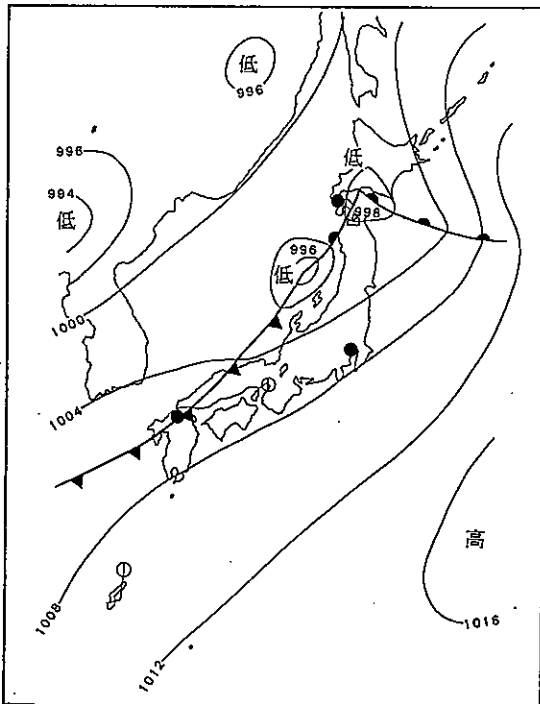
イ. 停滞前線豪雨 (6月27日から7月2日)

(ア) 気象の概要

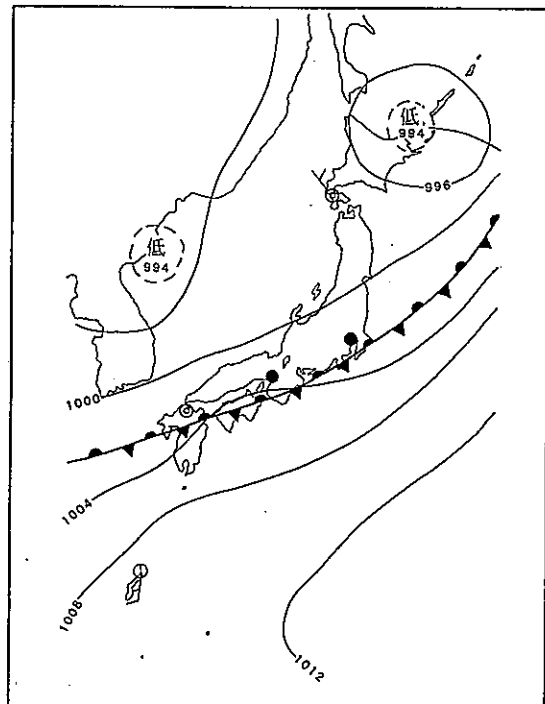
25日までは太平洋高気圧の勢いが強く日本列島は好天に恵まれていたが、太平洋高気圧が後退するにつれて前線を伴った低気圧が日本海に進んできた。

そして、この前線は西日本に停滞し、日本列島の南海上まで後退した太平洋高気圧をまわり込むように南の湿った空気（いわゆる湿舌）が近畿地方にも大量に流れ込み、前線下の県下到大雨を降らせた。以後、数日間はこの状態が続き梅雨末期にみられる典型的な集中豪雨となった。

【6月26日午後9時の天気図】



【6月27日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

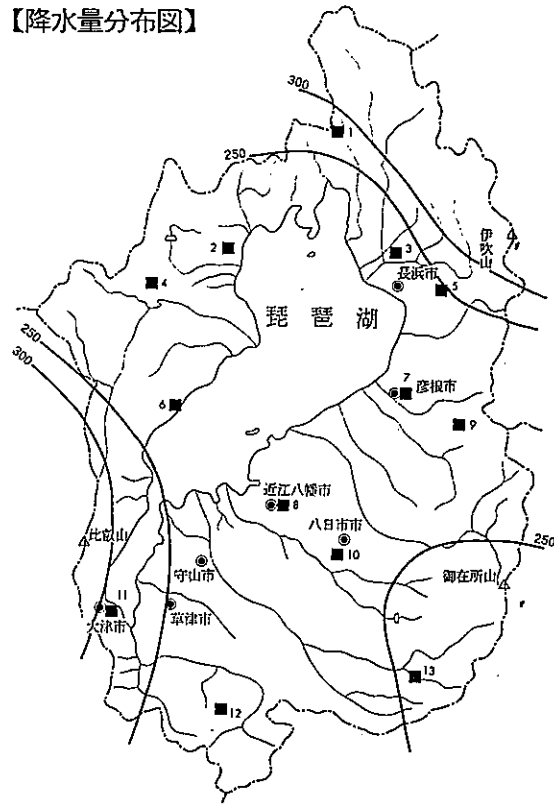
27日から28日にかけては、南部および東部を中心に豪雨となり、雨量は、南部と東部でそれぞれ80mmを超え、多いところでは120mmにも達した。

29日には、雨の中心はしだいに西部および北部へと移行し、29日の総雨量は西部および北部においては100mmを超え、南部から東部にかけては80mmから100mmに達した。

30日には瀬戸内海西部にあった低気圧の接近の影響で県下全般に30mmから40mmの雨が降ったが、低気圧が若狭湾に北上するとともに、前線も県の北方に抜けたため雨は小雨となった。

なお、6月27日から7月2日にかけて、県下一円にわたり総雨量は200mmを超えた。

【降水量分布図】



【气象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	27日	28日	29日	30日	1日	2日
1	柳ヶ瀬	41	9	115	37	71	56
2	今津	37	7	104	18	18	13
3	虎姫	53	11	103	17	20	22
4	荒川	—	—	—	—	—	—
5	春照	70	5	69	21	15	38
6	北小松	76	10	141	33	15	11
7	彦根	79	10	96	32	24	37
8	近江八幡	59	16	85	41	6	18
9	霜ヶ原	—	—	—	—	—	—
10	蒲生	64	11	68	41	6	21
11	大津	95	15	82	41	9	28
12	信楽	116	14	74	37	2	13
13	土山	98	10	49	40	3	15

(ウ) 気象管署のとした措置

a. 予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
大雨雷雨洪水注意報	27日午前2時40分	警報に切替
大雨洪水警報	27日午後0時	注意報に切替
雷雨注意報	27日午後3時25分	27日午後10時5分
大雨洪水注意報	27日午後10時5分	28日午前5時30分
大雨洪水注意報	29日午前5時15分	警報に切替
大雨洪水警報	29日午前8時	切替
大雨洪水警報	29日午後3時35分	注意報に切替
大雨洪水注意報	29日午後8時40分	切替
大雨洪水注意報	30日午前6時30分	警報に切替
大雨洪水警報	30日午前7時30分	切替
大雨洪水雷雨注意報	1日午後3時10分	警報に切替
大雨洪水警報	1日午後4時20分	切替
大雨洪水注意報	1日午後6時	2日午前6時40分

b. 気象情報

大雨に関する情報	第1号	27日午前9時50分	大雨に関する情報	第1号	29日午前2時20分
大雨に関する情報	第2号	27日午後5時30分	大雨に関する情報	第2号	29日午後5時20分

(エ) 県の対対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	27日午前2時40分(継続)	2号体制に切替
第2号警戒体制	27日午後0時	1号体制に切替
第1号警戒体制	27日午後3時25分	27日午後10時5分
第1号警戒体制	27日午後10時5分	28日午前5時30分
第1号警戒体制	29日午前5時15分	2号体制に切替
第2号警戒体制	29日午前8時	1号体制に切替
第1号警戒体制	29日午後8時40分	2号体制に切替
第2号警戒体制	30日午前7時30分	1号体制に切替
第1号警戒体制	1日午後3時10分	2号体制に切替
第2号警戒体制	1日午後4時20分	1号体制に切替
第1号警戒体制	1日午後6時	2日午前6時40分

(オ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟)	
住家被害	一部損壊	1	1	4	安曇川町
	床上浸水	2	2	10	大津市(1), 安曇川町(1)
	床下浸水	88	88	348	大津市(39), 長浜市(6), 近江八幡市(2), 石部町(2), 甲西町(3), 湖東町(1), マキノ町(1), 今津町(1), 安曇川町(20), 高島町(8), 新旭町(5)
非住家	その他	7		県内各所	

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	
田	冠水	207.2	
畑	冠水	242.5	
その他	道路		65
	橋りょう		1
その他	河川		308
	砂防		7
	崖くずれ		1

c. り災者数・り災世帯数

世帯	人	被災市町村(世帯, 人)
2	10	大津市(1, 5) 安曇川町(1, 5)

d. 被害金額

名 称	金額(千円)
農林水産施設	223,780
公共土木施設	2,308,845
< 小 計 >	2,532,625
農産被害	51,108
《 被害総額 》	2,583,733

e. その他の状況

6月30日午前9時現在

路線名	箇所	原因	規制状況	開始日時	解除日時
国道367号	大津市葛川平	崩土の危険有	全面通行止	6月29日 11:30	未定
甲南, 上野	甲南町杉谷	路肩欠損	大型車通行止	6月29日 12:00	未定
近江八幡, 土山	日野町平子	崩土	片側通行止	6月29日 8:00	未定
川相, 永源寺	多賀町菅原~ 愛東町百濟寺甲	異常気象	全面通行止	6月29日 15:05	未定
百濟寺甲, 上岸本	愛東町百濟寺甲~ 愛東町百濟寺乙	異常気象	全面通行止	6月29日 15:05	未定
中河内, 木ノ本	余呉町菅並~小原	崩土	全面通行止	6月29日 14:00	未定
国道367号	大津市阪下~中村	道路冠水	全面通行止	6月29日 15:00	6月30日 8:00

晩霜(4月18日)

3. 凍 霜 害

晩霜(4月18日)

(1) 気象の概況

大陸から冷たい高気圧が張り出し、夜間の冷え込みが厳しくなり、霜害が発生した。

(2) 被害の状況

被害総額: 72,900千円

市町村別の被害状況

町 名	作物名	面積 (ha)	減収量 (t)	被害金額 (千円)
水口町	茶	50	30	9,000
土山町	茶	200	100	32,000
甲賀町	茶	20	9	2,700
甲南町	茶	20	4	1,200
信楽町	茶	100	45	27,000
伊吹町	柿	0.3	6.7	1,000
合計		390.3	194.7	72,900

4. ひょう害

降ひょう(5月26日)

(1) 気象の概要

26日に朝鮮南部にあった低気圧が強い寒気を伴って東に進み、一方では、日中の強い日差しにより地表付近の空気が暖まり上昇気流が発生し、大気的不安定な状態が続いた。この結果、午後には雷が発生し、南部を中心に5分間から2時間くらいひょうが降った。

特に、ピンポン玉大のひょうが氷口町、甲南町、甲西町で約5分間から20分間降った。

(2) 被害の状況

被害総額：9,982千円

ア. 施設被害

被害額：852千円

市町村別の被害状況

町名	施設名	被害程度	件数	被害額(千円)	備考
甲南町	畜舎	小破	6	90	非共同
甲南町	堆肥舎	小破	4	110	非共同
信楽町	ビニールハウス	小破	2	500	非共同
甲西町	ガラスハウス	小破	2	152	非共同
合計			14	852	

イ. 農作物被害

被害額：9,130千円

市町村別の被害状況

町名	作物名	面積(ha)	減収量(t)	被害額(千円)
甲西町	ばれいしょ	0.3	6	270
	ぶどう	0.2	0.5	200
	たばこ	2	2.3	3,730
信楽町	茶	6	19.3	4,930
合計		8.5	28.1	9,130

強風(3月30日から4月8日)

5.その他

強風(3月30日から4月8日)

(1) 気象の概況

29日に黄海にあらわれた低気圧は、30日発達しながら、日本海を通過した。この低気圧は30日午後9時には978mbと台風なみに発達し、各地とも南寄りの強い風が吹きあれた。

(2) 被害の状況

被害総額：44,452千円

ア. 施設被害

被害額：41,314千円

主な被害地域：中主町、近江八幡市、能登川町、米原町、湖東町、八日市市、安土町、竜王町その他

施設名	全壊		大破		中破		小破		合計	
	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額	件数	被害額
(共同)	2	2,565	3	1,924			29	1,794	34	6,283
(非共同)	33	7,917	15	5,910	136	14,383	136	6,821	320	35,031
合計	35	10,482	18	7,834	136	14,383	165	8,615	354	41,314

イ. 農作物被害

被害額：3,138千円

主な被害地域：能登川町、水口町他

被害面積：4.67ha

主な被害作物：ナス、キュウリ、トマト、イチゴ

昭和55年（1980年）の気象概況

昨年12月から2月中旬にかけ、北部を中心に雪の降る日が多かったが、全般的に短い冬であった。

3月に入ると移動性高気圧と低気圧が交互に通る、一時冬型の気圧配置となり寒い日もあった。その後、天候は周期的に変わったが、高気圧は日本列島の北に偏り全般的に気温は低かった。

5月前半は、移動性高気圧におおわれ晴天の日が続いたが、下旬には梅雨前線が現われ、平年より早い29日に梅雨入りとなった。本年の梅雨は入りが早く、明けが遅かった。また、太平洋高気圧の勢力が例年より弱く、全国的に冷夏となり、彦根では8月の平均気温が67年ぶりの低温となり、8月の日照時間は75年ぶりの寡照で、異常気象の夏となった。

9月に入って不順な天候も回復に向ったが、下旬には大陸からの高気圧により再び低温となった。この間、台風は日本に接近、あるいは上陸したものもあったが、本県に影響を与えたものはなかった。

その後、天候は短い周期で変化し、10月下旬には大陸の高気圧が張り出し、冬型の気圧配置となり、季節風の吹き出しで、北部の山沿いではしぐれる日が多くなった。11月から12月にかけても天候は短い周期で変化し、年末には強い寒気の南下もあって、北部を中心に大雪となった。

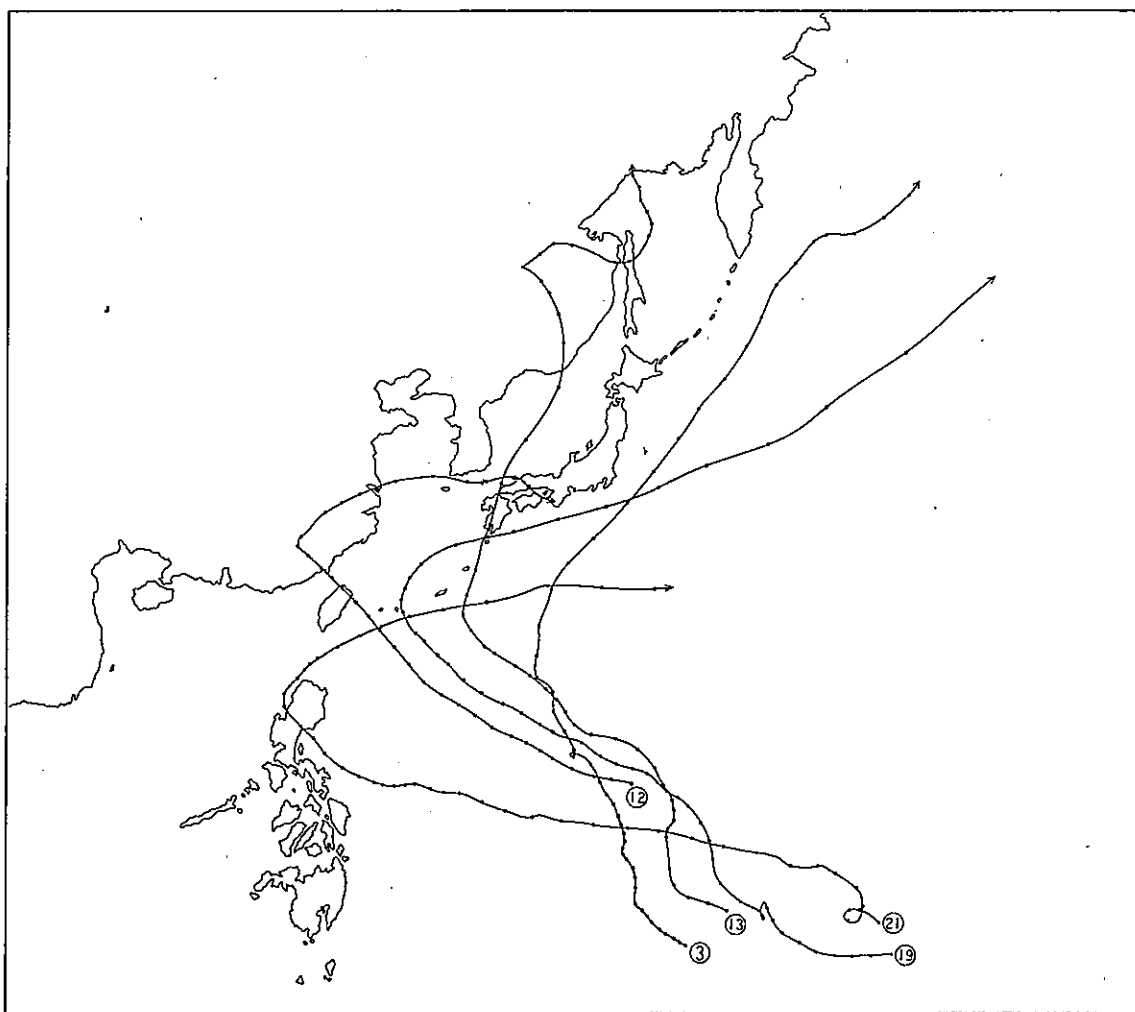
1. 台 風

台風の概況

本年、日本付近で発生した台風は昨年と同じ24個で、このうち日本に直接、影響を与えたものは5個であった。日本に上陸した台風は13号のみで、九州に上陸、縦断した後、日本海を北上し、温帯性低気圧となった。なお、本県においては台風による大きな被害はなかった。

また、日本に影響を与えた台風の進路は、次の通りである。

【日本に影響のあった台風の経路】



【主要な台風の概要】

台風番号	3号	12号	13号	19号	21号
最低気圧 (mb)	983.3	964.3	996.3	47.3	33.3
最大風速(m/秒)	951.7	951.6	19.3	30.7	21.6

2. 豪 雨

(1) 豪雨の状況

例年ならば、晴天の持続する盛夏時に前線が停滞し、集中豪雨が連日のように各地で発生した。とりわけ、8月28日から31日にかけて九州北部を襲った大雨は大災害となった。

なお、西日本での主な集中豪雨は、次の通りである。

月 日	場 所	主 な 原 因
5月15日	九州から近畿地方南部	15日に低気圧が日本海を通過した後、寒冷前線が南下し日本列島南岸に停滞したため。
5月20日から21日	九州、中国、近畿地方	20日から日本列島南岸に前線が停滞し、さらに、21日には台風3号の影響も加わったため。
5月25日	全国	低気圧が日本海で発達したため。
5月30日	九州地方南部	日本列島南岸に前線が停滞したため。
6月7日から8日	高知県をはじめとする四国地方及び和歌山県	7日は四国沖に小規模な低気圧が発生し、また、8日には別の低気圧が日本海上通過したため。
6月13日	九州地方南部	停滞前線の上を小規模な低気圧が通過したため。
6月17日	東北地方	低気圧が日本海で発達したため。
6月中旬から下旬	九州地方	前線が停滞し、前線上を低気圧が次々と東へ進んだため。
7月1日	九州から東海地方	低気圧が発達しながら日本列島南岸を通過したため。
7月7日から21日	全国、とりわけ九州地方北部	停滞前線の上を低気圧が次々に通過したため。
7月14日	山形、秋田、岩手の各県	低気圧が日本海から三陸沖へ抜けたため。
7月23日	全国	前線が日本列島に南下し、停滞し、大気が不安定となったため。
8月3日	四国地方を中心とした西日本	オホーツク海高気圧が強まったため。
8月15日	九州地方及び中部から東北地方	日本列島付近に前線が停滞したため。
8月22日	九州地方北部から東海地方	低気圧が発達しながら日本海を通過したため。
8月26日	本州各地	前線が停滞したため。
8月28日	九州地方北部	オホーツク海高気圧が強まり前線が西日本に停滞するとともに、台風12号による暖い湿気の流入や、同台風から変わった低気圧が通過したため。

前線豪雨(5月31日から6月1日)

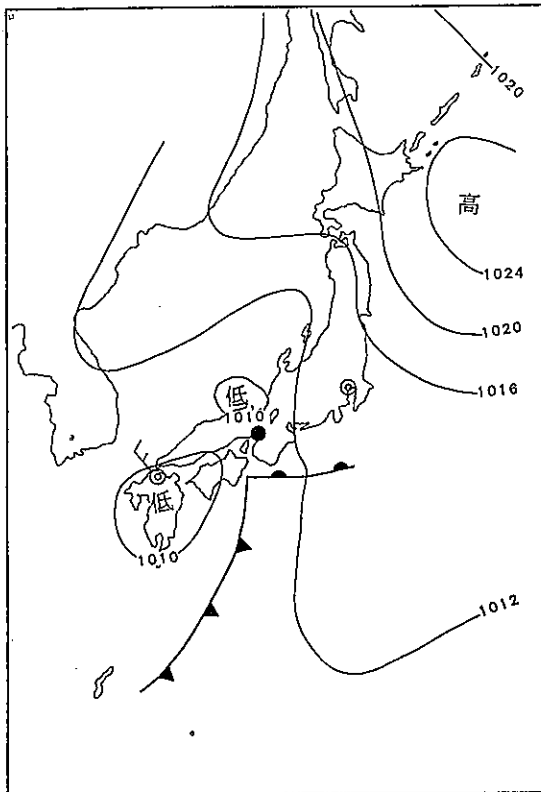
(2) 災害の状況

ア. 前線豪雨 (5月31日から6月1日)

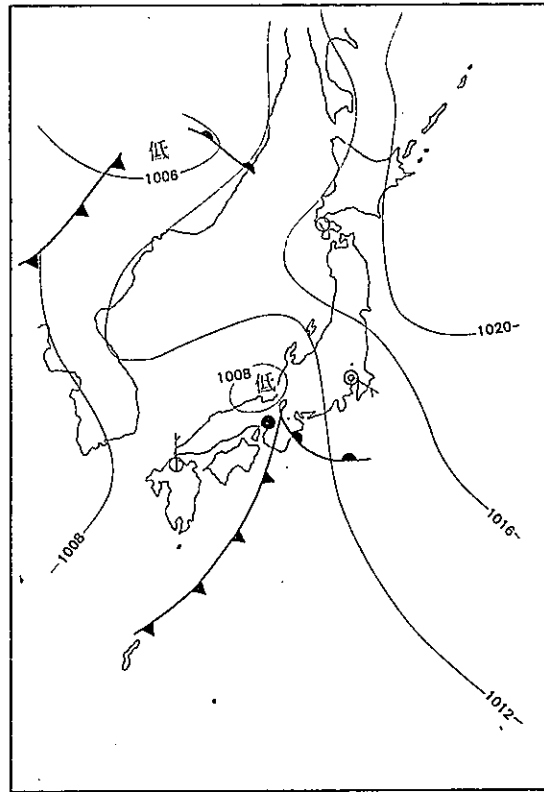
(ア) 気象の概要

30日に九州に停滞していた低気圧が31日には日本海沿岸を東へ進み、それに伴う前線が31日から1日にかけて本県を通過した。この前線の影響で、県下では南部を中心として雷を伴う局地的な大雨となった。

【5月31日午後9時の天気図】



【6月1日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

短時間に多くの雨が降ったため、河川は急激に増水し警戒水位を突破して甚大な被害をもたらした。

【主要河川水位表】

河川名	観測所	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
愛知川	八日市土木管内 御河辺橋	1.4	1.5	31日午前0時

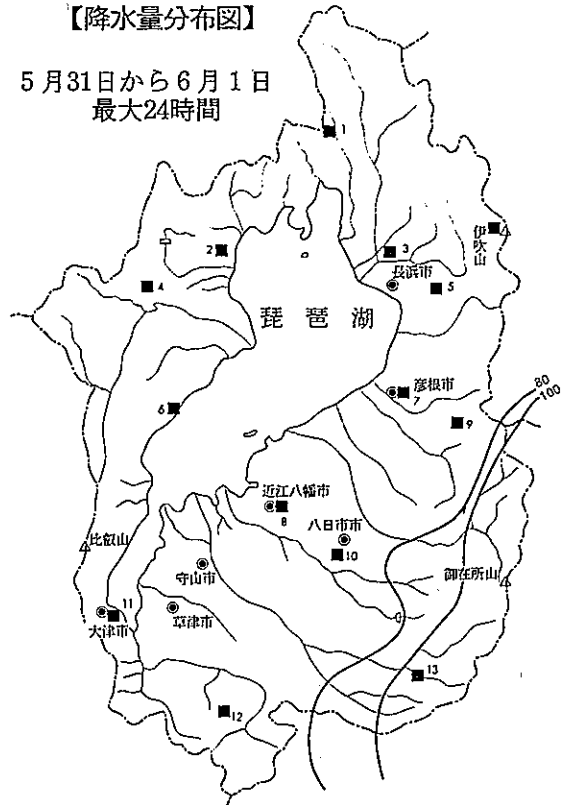
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	31日	1日
1	柳ヶ瀬	66	3
2	今津	48	6
3	虎姫	6	3
4	荒川	51	5
5	春照	57	10
6	北小松	69	7
7	彦根	59	6
8	近江八幡	57	3
9	霜ヶ原	47	10
10	蒲生	59	5
11	大津	42	4
12	信楽	47	2
13	土山	104	27

【降水量分布図】

5月31日から6月1日
最大24時間



(ウ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨注意報	31日午後7時50分	切替
大雨洪水注意報	31日午後10時40分	警報に切替
大雨洪水警報	1日午前4時10分	注意報に切替
大雨洪水注意報	1日午前6時35分	1日午前10時

(エ) 県の対応状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	31日午後7時50分	2号体制に切替
第2号警戒体制	1日午前4時10分	1号体制に切替
第1号警戒体制	1日午前6時35分	1日午前10時

(オ) 被害の状況

a. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	被災市町村
田 冠水	3		高島町
その他	道路	2	水口土木管内
	河川	32	水口土木管内
	砂防	3	八日市土木管内

b. 被害金額

名 称	金額(千円)
公共土木施設	489,182 ²
< 小 計 >	489,182
《 被 害 総 額 》	489,182

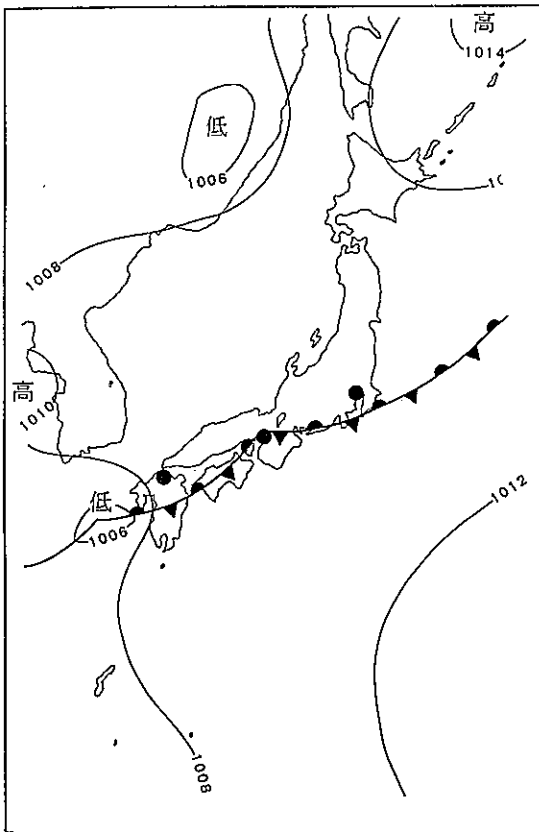
梅雨前線豪雨(7月6日から12日)

イ. 梅雨前線豪雨(7月6日から12日)

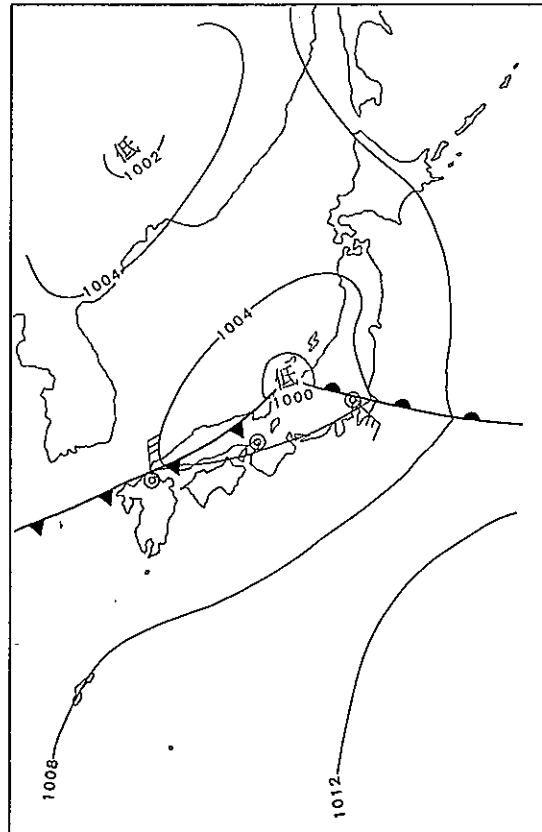
(ア) 気象の概要

九州地方に5日に発生した低気圧は、本州の南海上を東西に延びる梅雨前線の上を東へ進んだ。この低気圧にあわせて、梅雨前線も北上し始め、西日本に停滞した。さらに、この前線上を小規模な低気圧が次々と東へ進んだため、県下においても6日から雨が降り始め12日にかけて大雨となった。

【7月9日午前9時の天気図】



【7月11日午前9時の天気図】

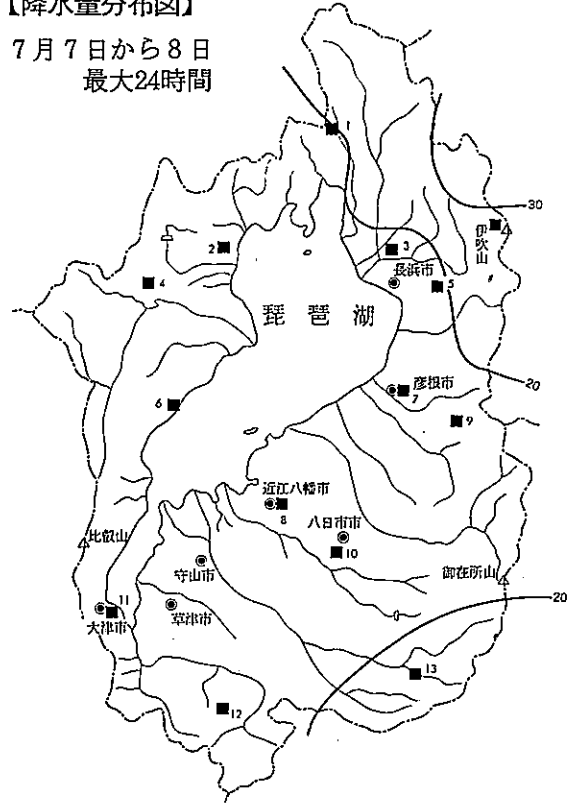


(イ) 降雨の状況

9日午前3時頃から雨が降り始め、その後、一時梅雨の中休みとなったが12日に梅雨前線の活動が活発となり、大津市の際川が破堤し被害が発生した。

【降水量分布図】

7月7日から8日
最大24時間



【气象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日
1	柳ヶ瀬	24	22	15	8	2	63	7
2	今津	9	48	14	17	3	41	1
3	虎姫	36	56	23	17	3	43	4
4	荒川	19	44	7	59	4	25	7
5	春照	47	23	26	33	3	52	8
6	北小松	34	26	17	18	6	38	7
7	彦根	9	4	15	16	5	36	20
8	近江八幡	3	2	12	22	5	33	9
9	霜ヶ原	5	2	18	37	8	32	19
10	蒲生	16	4	20	27	11	26	13
11	大津	—	1	11	25	23	40	9
12	信楽	24	8	34	47	19	30	17
13	土山	27	2	53	81	28	32	20

(ウ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
大雨雷雨注意報	6日午後6時15分	7日午前5時30分
大雨雷雨洪水注意報	7日午前10時25分	7日午後8時45分
大雨洪水雷雨注意報	7日午後10時50分	8日午前6時50分
大雨洪水雷雨注意報	9日午前6時15分	9日午後3時10分
大雨洪水注意報	11日午前4時50分	12日午前5時50分

(エ) 県の対応状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	6日午後6時15分	7日午前5時30分
第1号警戒体制	7日午前10時25分	7日午後8時45分
第1号警戒体制	7日午後10時50分	8日午前6時50分
第1号警戒体制	9日午前6時15分	9日午後3時10分
第1号警戒体制	11日午前4時50分	12日午前5時50分

(オ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村
一部損壊	1	1	4	大津市
非住家 公共建物	1			大津市

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	箇所	被 災 市 町 村
道 路	13	長浜市(1), 水口土木管内(12)
河 川	52	長浜市(32), 水口土木管内(20)
砂 防	1	長浜市
崖くずれ	7	県内各所

c. 被害金額

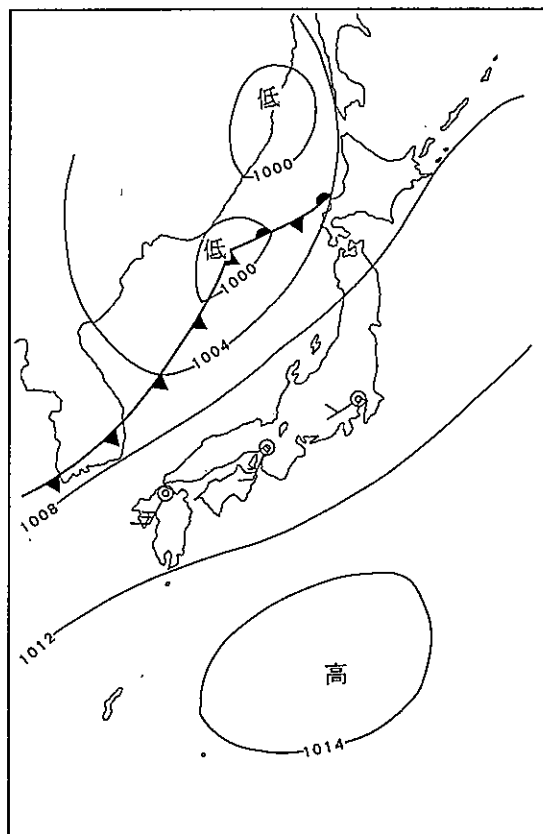
名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
農林水産施設	180,300	農 林 被 害	1,275
公共土木施設	381,770	《 被 害 総 額 》	563,345
〈 小 計 〉	562,070		

ウ. 前線豪雨(7月23日から24日)

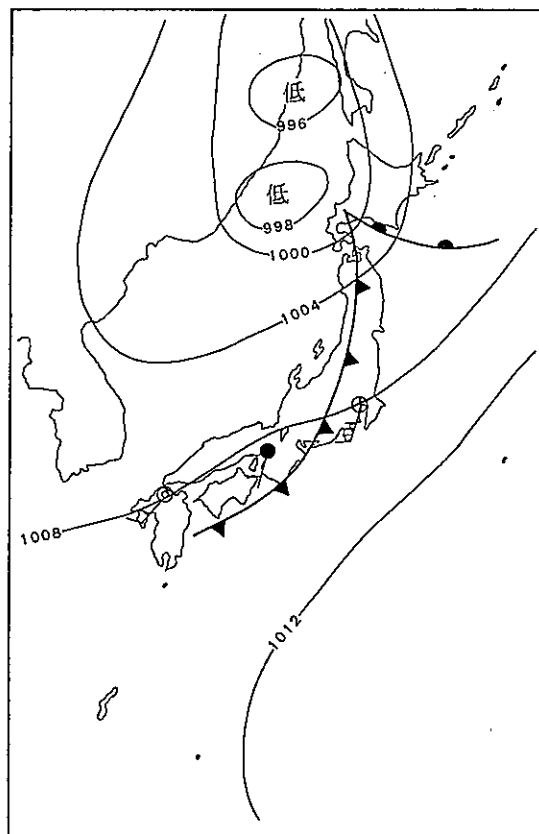
(ア) 気象の概要

23日から24日にかけて日本海より雷を伴った寒冷前線が南下し、西日本付近に停滞するとともに、太平洋高気圧から吹き出される暖かい空気が流入し、本県では、22日の午後4時頃より雨が降り始め、強雨域は北部から南部へと移動しながら23日の未明から早朝にかけて県下各地に大雨をもたらした。

【7月23日午前9時の天気図】



【7月23日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

県下全域の総雨量は60mm前後であったが、大津、草津、水口、八日市、彦根土木事務所の各管内においては集中的な豪雨となった。

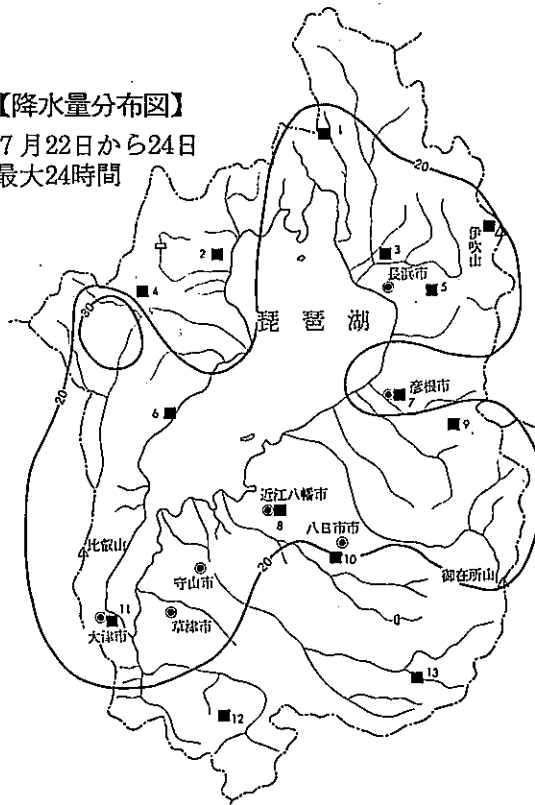
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	23日	24日
1	柳ヶ瀬	15	28
2	今津	10	41
3	虎姫	7	57
4	荒川	11	39
5	春照	2	79
6	北小松	3	61
7	彦根	15	60
8	近江八幡	11	89
9	霜ヶ原	12	99
10	蒲生	9	75
11	大津	14	106
12	信楽	9	25
13	土山	4	40

【降水量分布図】

7月22日から24日
最大24時間



(ウ) 出水の状況

短時間の集中豪雨であったため、河川はいたるところで警戒水位に達した。

【主要河川水位表】

河川名	観測所	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
日野川	近江八幡市 桐原橋	3.0	3.1	23日午前11時
犬上川	彦根市 高宮橋	1.3	1.4	23日午前8時

(エ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨雷雨注意報	23日午後2時30分	24日午前0時
大雨雷雨注意報	24日午前4時30分	警報に切替
大雨洪水警報	24日午前7時40分	注意報に切替
大雨雷雨注意報	24日午後1時45分	24日午後11時20分

(オ) 県の対応状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	23日午後2時30分	24日午前0時
第1号警戒体制	24日午前4時30分	2号体制に切替
第2号警戒体制	24日午前7時40分	1号体制に切替
第1号警戒体制	24日午後1時45分	24日午後11時20分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村 (棟)
一部損壊	4			栗東町(2), 甲西町(2)
床上浸水	1	1	4	大津市
床下浸水	279			大津市(23), 草津市(212), 守山市(20), 栗東町(15), 野洲町(9)

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	回線	世帯	被 災 市 町 村 (箇所)
田 流失・埋没	2				大津市, 守山市, その他
そ 道 路		3			草津市
		43			大津市(18), 彦根市(2), 八日市市(4), 草津市(17), 今津土木管内(2)
		1			大津市
の 河 川		139			大津市(49), 彦根市(18), 八日市市(26), 草津市(46)
崖くずれ		2			県内各所
他 鉄道不通		1			—
通信被害			1,307		県内各所
停電被害				21,850	県内各所

c. り災者数・り災世帯数

世 帯	人	被災市町村
1	4	—

d. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
公立文教施設	3,180
農林水産業施設	63,000
公共土木施設	1,909,940
< 小 計 >	1,976,120
農 林 被 害	5,510
<< 被 害 総 額 >>	1,981,630

大雨(8月19日から20日)

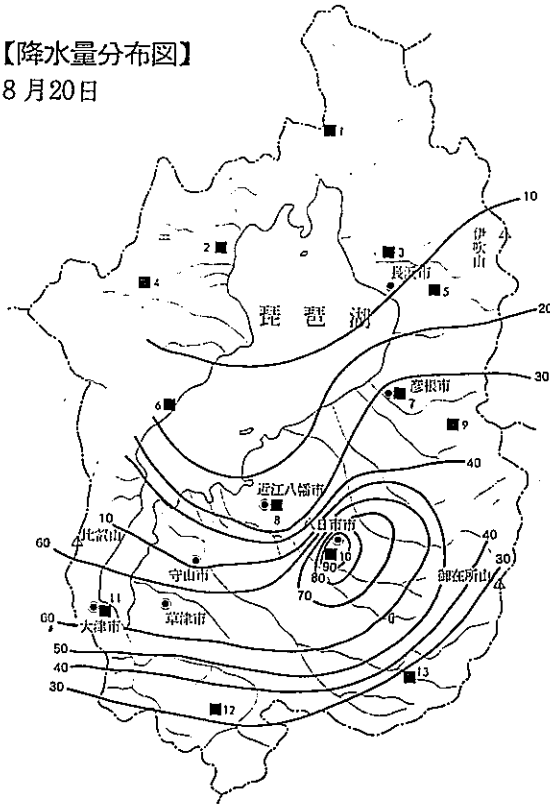
エ. 大雨(8月19日から20日)

(ア) 気象の概要

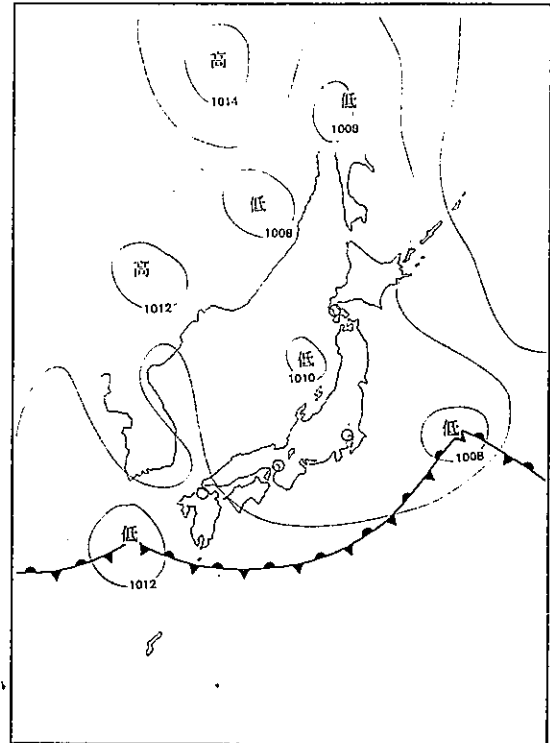
西日本南岸に停滞していた前線が活発に活動したため、県下でも大津市、蒲生町付近を中心に90mm~60mmの短期的な集中豪雨となった。

【降水量分布図】

8月20日



【8月19日午前9時の天気図】



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	19日	20日
1	柳ヶ瀬	7	4
2	今津	1	4
3	虎姫	1	7
4	荒川	—	6
5	春照	2	15
6	北小松	1	16
7	彦根	5	32
8	近江八幡	13	25
9	霜ヶ原	7	33
10	蒲生	9	92
11	大津	1	68
12	信楽	—	31
13	土山	—	23

(イ) 降雨の状況

20日の総雨量では、大津市で68mm、蒲生町で92mmを記録した。

(ウ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨注意報	20日午前5時20分	20日午前9時40分

(エ) 県の対応状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	20日午前5時20分	20日午前9時40分

(オ) 被害の状況

田の流失、埋没面積：0.6ha（大津市）

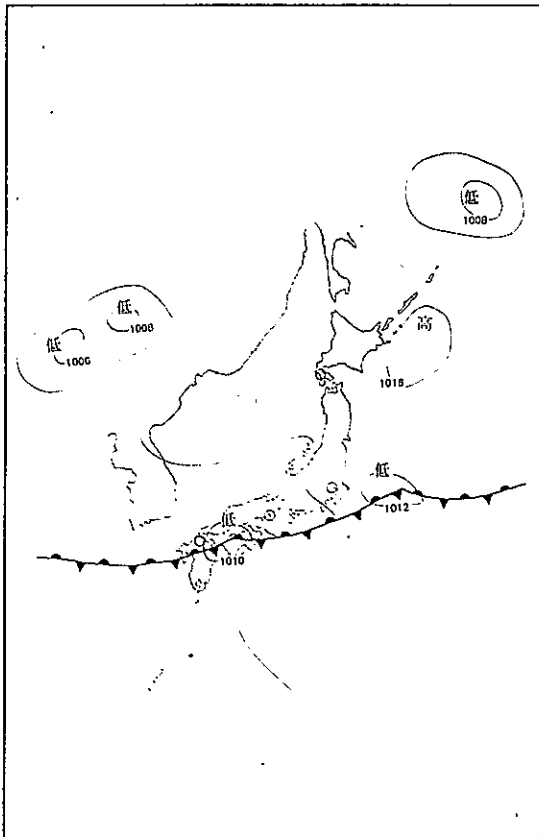
農林水産業施設被害総額：12,000千円

オ. 大雨(8月22日)

(ア) 気象の概要

西日本南岸に停滞していた前線が活発に移動したため、一時的に50mmを超える集中豪雨となった。

【8月22日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

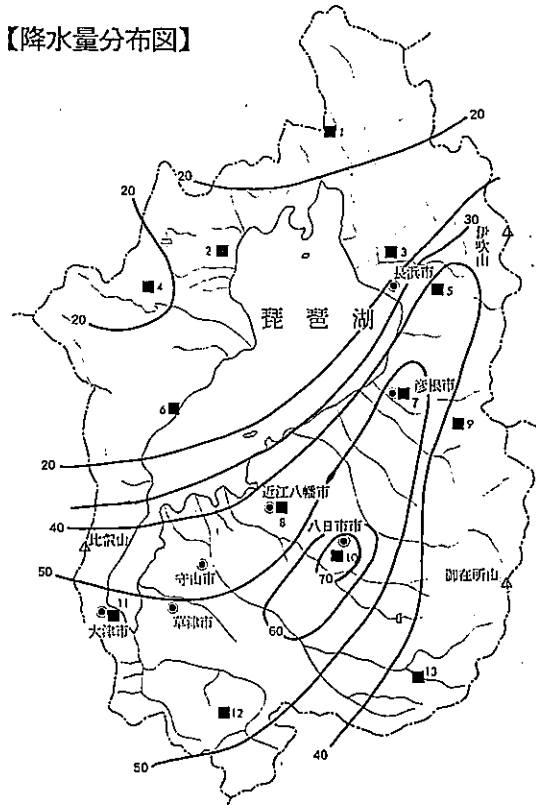
22日の総雨量は彦根市で59mm、大津市で58mm、蒲生町で72mmを記録した。

【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	22日
1	柳ヶ瀬	20
2	今津	19
3	虎姫	12
4	荒川	26
5	春照	43
6	北小松	13
7	彦根	59
8	近江八幡	31
9	霜ヶ原	38
10	蒲生	72
11	大津	58
12	信楽	53
13	土山	36

【降水量分布図】



(ウ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨雷雨注意報	22日午前2時15分	22日午前6時40分
大雨洪水雷雨注意報	22日午後1時30分	警報に切替
大雨洪水警報	23日午後3時30分	注意報に切替
大雨洪水雷雨注意報	23日午後6時25分	23日午後8時15分

(エ) 県の対応状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	22日午前2時15分	22日午前6時40分
第1号警戒体制	22日午後1時30分	2号体制に切替
第2号警戒体制	23日午後3時30分	1号体制に切替

(オ) 被害の状況

田の流失、埋没面積：0.4ha (信楽町)

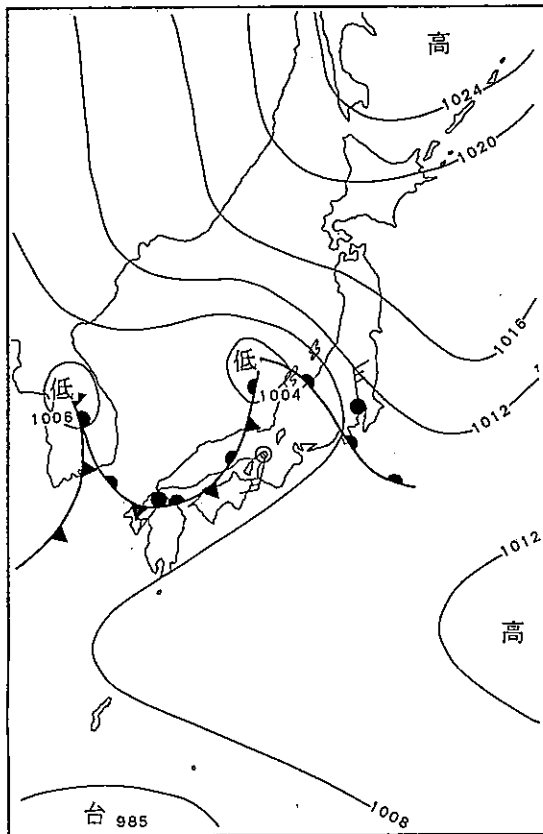
農林水産業施設被害総額：3,000千円

カ. 豪雨(8月26日から27日)

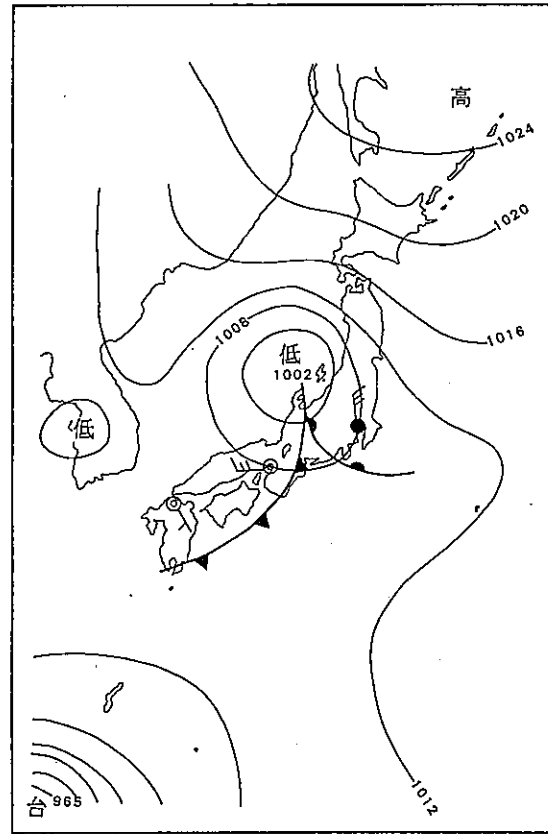
(ア) 気象の概要

中国大陸に発生した低気圧は25日に寒冷前線を伴って東へ進み、黄海を経て日本海に入った。その後、前線の活動が活発化し、本県では26日午後5時頃より雨が降り始め、26日午後8時から27日午前1時にかけて、特に南部を中心として時間雨量が50mmに達する豪雨となった。

【8月26日午後9時の天気図】



【8月27日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

26日午後5時頃より雨が降り始め、26日午後6時から同9時にかけて大津土木事務所管内の山間部、八日市土木事務所管内の平野部、彦根土木事務所管内全域で時間雨量が20mmから40mmの豪雨となった。

その後も前線の活動は活発で、強雨域は移動し26日午後11時から27日午前1時にかけて大津土木事務所管内及び草津土木事務所管内の各平野部、八日市土木事務所管内の山間部、水口土木事務所管内及び長浜土木事務所管内の全域において豪雨となった。

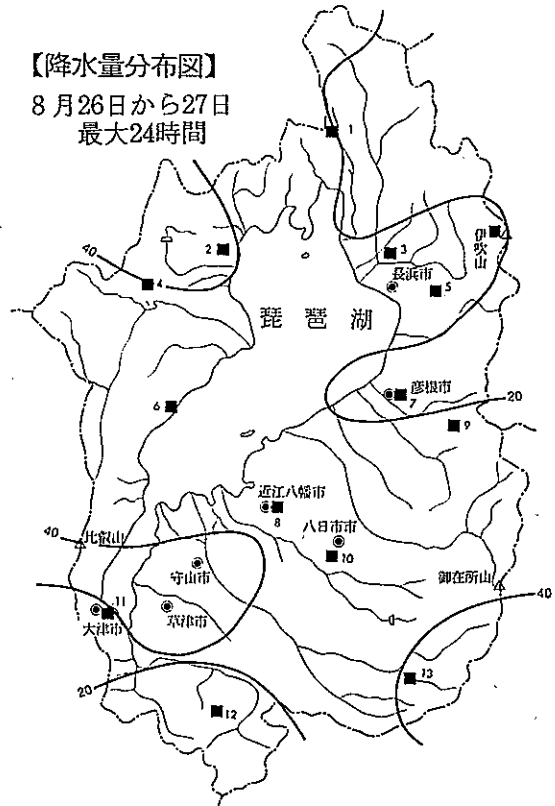
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	26日	27日
1	柳ヶ瀬	31	5
2	今津	66	6
3	虎姫	53	21
4	荒川	69	8
5	春照	41	22
6	北小松	43	2
7	彦根	52	16
8	近江八幡	64	21
9	霜ヶ原	95	29
10	蒲生	23	39
11	大津	47	48
12	信楽	22	58
13	土山	11	54

【降水量分布図】

8月26日から27日
最大24時間



(ウ) 出水の状況

河川は県下各地で警戒水位を突破し、流域に甚大な被害をもたらした。特に、大津土木事務所及び草津土木事務所管内では時間雨量が60mmに達し、この雨量が総雨量の50%から70%を占める局地的な集中豪雨となり各地で溢水・氾濫をまねいた。

【主要河川水位表】

河川名	観測所		警戒水位(m)	最高水位(m)	日 時
和邇川	志賀町	和邇川橋	1.5	1.5	26日午前8時
草津川	草津市	旭橋	0.8	0.9	27日午前2時
葉山川	栗東町	上鈎池導水路	1.8	2.0	27日午前2時
童子川	野洲町	童子川橋	1.8	2.15	27日午前4時
杣川	水口町	杣川橋	3.0	3.0	27日午前3時
佐久良川	蒲生町	市子橋	1.2	1.3	27日午前3時
祖父川	竜王町	鵜川橋	1.5	1.7	27日午前2時
宇曾川	彦根市	近鉄橋	2.7	2.8	26日午後11時
姉川	長浜市	国友橋	1.6	1.7	27日午前3時

(エ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水雷雨注意報	26日午後2時30分	警報に切替
大雨洪水警報	26日午後9時25分	注意報に切替
大雨洪水雷雨注意報	27日午前2時5分	27日午前5時30分

(オ) 県の対応状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	26日午後2時30分	2号体制に切替
第2号警戒体制	26日午後9時25分	1号体制に切替
第1号警戒体制	27日午前2時5分	27日午前5時30分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村 (棟,世帯,人)
一部破損	1	1	5	マキノ町
床上浸水	19	19	64	大津市(10,10,34),草津市(9,9,30)
床下浸水	1,182			大津市(150),彦根市(19),長浜市(302),近江八幡市(5),草津市(447), 守山市(105),栗東町(6),野洲町(1),石部町(110),安土町(7),日野町(2), 能登川町(27),マキノ町(1)

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	回線	世帯	被 災 市 町 村 (箇所)
田 冠 水	14				野洲町(7),その他県内各所
畑 冠 水	36.1				県内各所
そ の 河 川	学 校		3		草津市
	道 路		59		大津市(21),彦根市(3),長浜市(3),八日市市(11), 草津市(12),水口土木管内(9)
	河 川		144		大津市(76),彦根市(10),長浜市(10),八日市市 (20),草津市(17),水口土木管内(11)
	砂 防		12		大津市
	水 道		2		草津市
他 鉄 道 不 通			2		石部町
通 信 被 害				307	県内各所
停 電 被 害				5,000	県内各所

d. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
公立文教施設	2,100
農林水産業施設	258,000
公共土木施設	1,289,550
その他の公共施設	400
< 小 計 >	1,550,050
農 林 被 害	32,500
商 工 被 害	1,380
<< 被 害 総 額 >>	1,583,930

c. り災者数・り災世帯数

世 帯	人	被災市町村
19	64	—

大雨(11月21日から22日)

キ. 大雨 (11月21日から22日)

(ア) 気象の概要

20日後半、高気圧が東海上に中心を移すとともに、東シナ海に低気圧が発生し、この低気圧はやや発達しながら東に進み、四国沖を通過した。

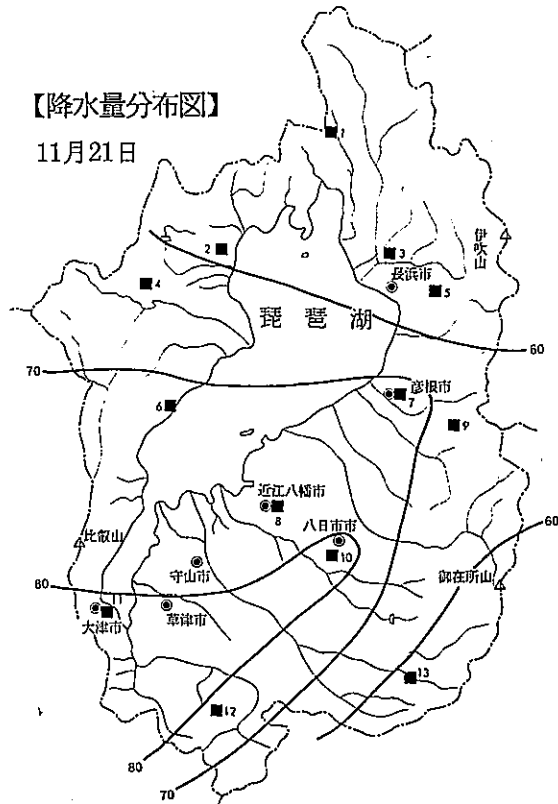
この深い気圧の谷の通過で、天気が崩れ始め、県下において、蒲生町、信楽町付近を中心に総雨量70mmを超える集中豪雨となった。

(イ) 降雨の状況

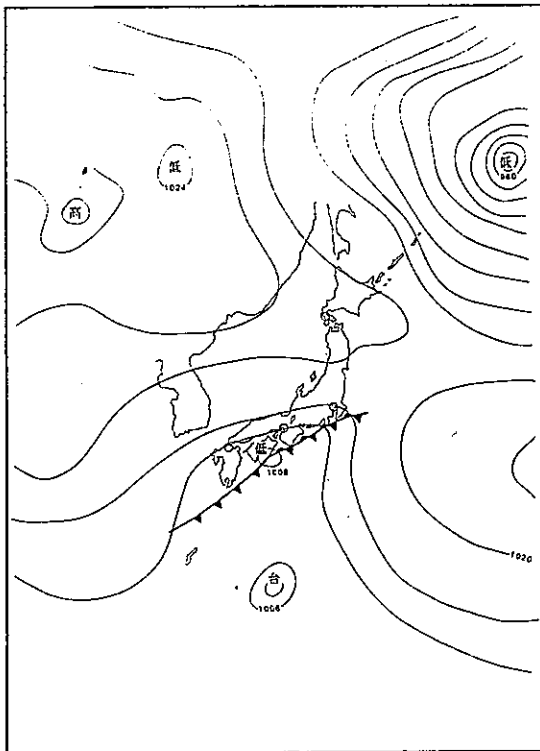
21日の総雨量では、蒲生町で84mm、大津市で82mm、信楽町で78mmを記録した。特に午後7時から8時にかけて、強い雨となった。

【降水量分布図】

11月21日



【11月21日午後9時の天気図】



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	21日	22日
1	柳ヶ瀬	51	2
2	今津	59	1
3	虎姫	55	2
4	荒川	—	—
5	春照	55	4
6	北小松	72	1
7	彦根	74	3
8	近江八幡	74	4
9	霜ヶ原	65	6
10	蒲生	84	5
11	大津	82	5
12	信楽	78	7
13	土山	59	6

(ウ) 気象官署のとした措置

予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
風雨注意報	21日午後4時45分	切替
強風大雨洪水注意報	21日午後8時40分	22日午前5時50分

(エ) 県の対応状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	21日午後4時45分	22日午前5時50分

(オ) 被害の状況

名 称	箇 所
道 路	7
河 川	2

公共土木施設被害総額：98,500千円

冷夏(7月下旬から9月上旬)

3.その他

冷夏(7月下旬から9月上旬)

(1) 気象の概要

7月20日には平年より4日遅く、梅雨が明けたが、太平洋高気圧の勢力が例年より弱く、23日頃からオホーツク海高気圧が強まり、戻り梅雨の現象となり、天気は安定せず低温、多雨であった。8月になっても、オホーツク海高気圧の勢力が強く、太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、西日本の南岸に前線が停滞し、その影響で、低温・日照不足の状態が続いた。中旬半ば頃、太平洋高気圧が強まり、一時夏型の天気となり最高気温も30℃をこえたが、この夏型も長続きせず再び本州の南岸に前線が停滞する日が続き、その前線上を低気圧が通り、22日、26日には日雨量が50mmを越す大雨が降った。

このため7、8、9月の最高、最低、及び平均気温が、平年を下まわり、8月を中心に明治以来の三大冷害といわれている明治35、38年、大正2年に匹敵する異常な低温に見舞われ、日照不足、多雨も重なり冷害による被害は県下全域にわたり、特に県北部、南部、湖東の山間部地方で水稻を主とする、倒伏、関連病虫害等の被害が大きく、甲賀郡信楽地区、高島郡朽木地区では、不稔のため被害は顕著であった。

滋賀県は9月12日農作物異常気象対策本部を設置した。

彦根地方気象台

要素	7月	8月
月降水量 mm	278.0	283.5
平年値 mm	219.9	132.7
備考	多雨の順位 1894年以来第6位である。	
月平均気温℃	23.6	24.6
平年値℃	25.1	26.4
備考	低温の順位 1894年以来第5位である。	
月間日照時間 ^h	134.1	138.8
平年値 ^h	192.8	240.1
備考	募照の順位 1895年以来第6位である。	募照の順位 1895年以来第2位である。

(2) 被害の状況

農産被害総額：7,510,324千円

被害の状況

種類	面積 ha	金額千円	種類	面積 ha	金額千円
水稲	42,565	6,772,355	飼料作物	132	20,910
雑穀	494.8	43,277	花き	6	12,000
野菜	580.7	551,427	その他	3	450
果樹	188.3	91,905	計	42,989.4	7,510,324
工芸作物	19.6	18,000			

(注)工芸作物とは煙草のことである。

昭和56年(1981年)の気象概況

昨年末から2月にかけて、県北部を中心に38豪雪をしのぐ大雪となり、かなりの被害が発生し厳しい冬であった。

3月に入って、冬から春へと天候ベースが変わり、移動性高気圧と低気圧が、短い周期で通り、天気も周期的に変わった。

夏の前半は、高・低気圧が短い周期で交互に通り、一時寒気が入り不順な天候の時期があった。本年の梅雨入りは6月11日、梅雨明けは、7月16日で、梅雨期間は平年より短かった。

梅雨明け後は、夏型の気圧配置となり本格的な夏となったが、8月に入って天気は周期的に変わり、比較的涼しく、盛夏期は短かった。

9月中旬以降は気温の低い涼しい日がつづき、秋への移り変わりは早かった。10月に入って天気は周期的に変化し、下旬には、冬型の気圧配置が現れた。11月になって冬の訪れは早くなり、冬型が現れやすくなった。夏から秋にかけて、県内に影響を与える台風はなかった。

1. 台 風

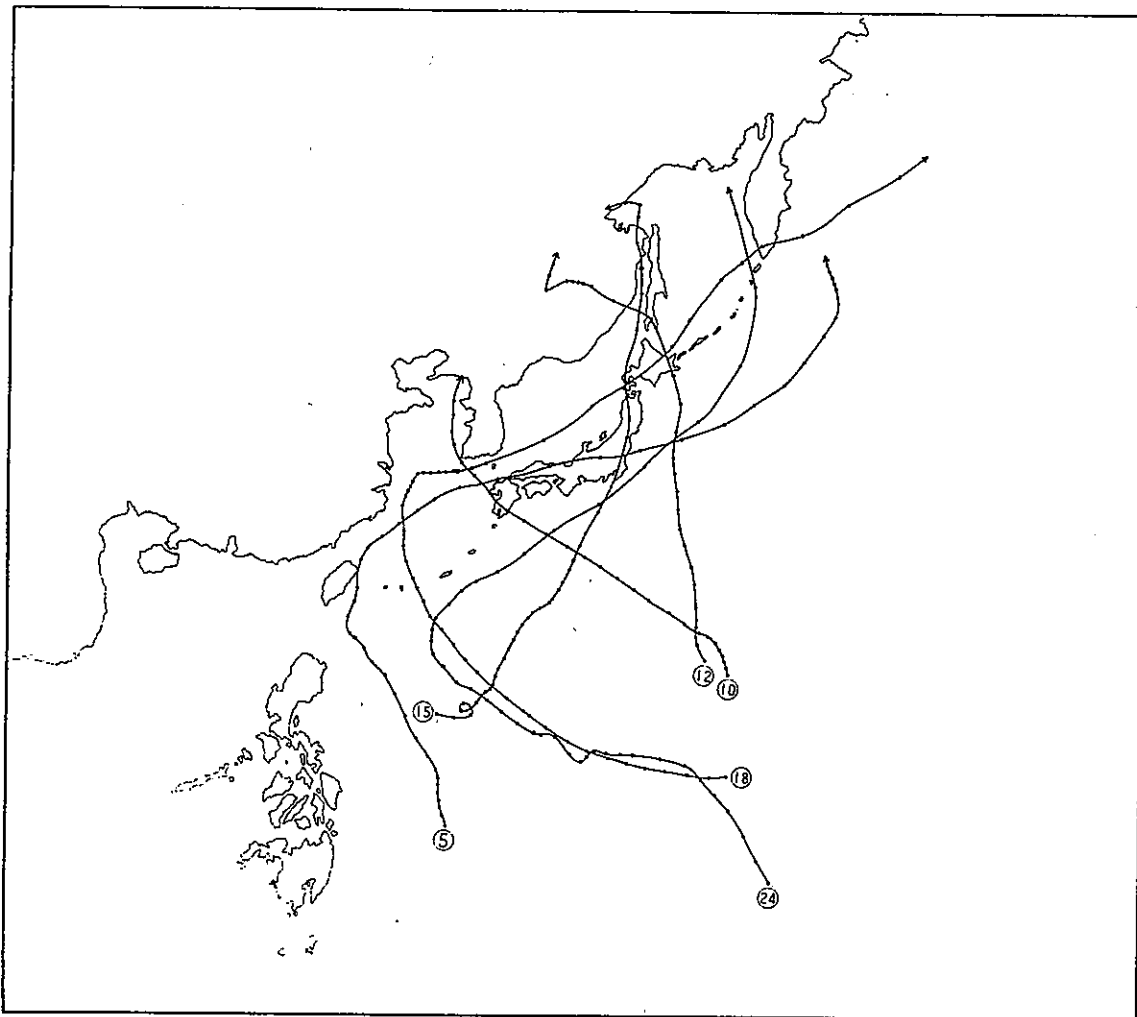
(1) 台風の概況

本年、日本付近で発生した台風は29個で、上陸したものは3個であった。

このうち15号が房総半島に上陸したが、台風がこのコースをたどったのは16年ぶりのことであつた。

なお、日本に影響を与えた台風の進路は、次の通りである。

【日本に影響のあつた台風の進路】



【主要な台風の概要】

台風番号	5号	10号	12号	15号	18号	24号
最低気圧 (mb)	987.8	972.4	980.4	966.2	975.8	968.7
最大風速(m/秒)	27.6	30.9	15.7	27.7	25.7	28.4

台風24号(10月21日から22日)

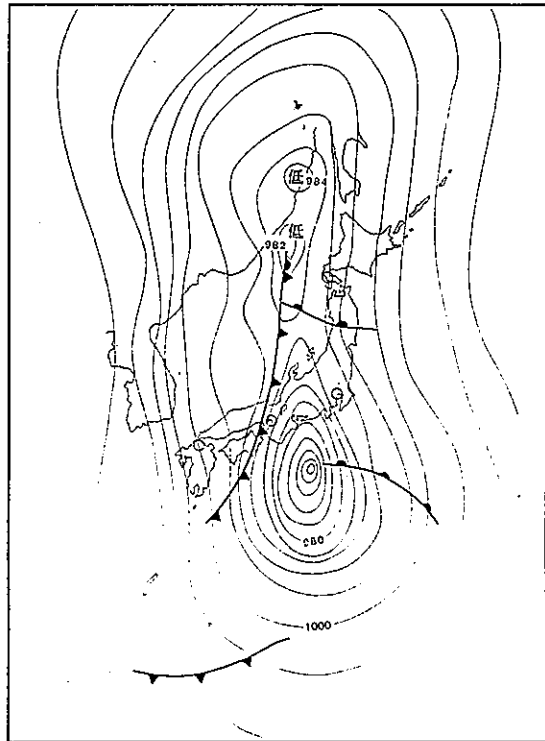
(2) 災害の状況

台風24号 (10月21日から22日)

ア. 気象の概要

台風24号は、沖縄の南東海上から北東に進み、22日夜半すぎに八丈島の北を通り、23日朝には根室の南東沖に達した。これに伴い、22日午後から強い雨が降った。

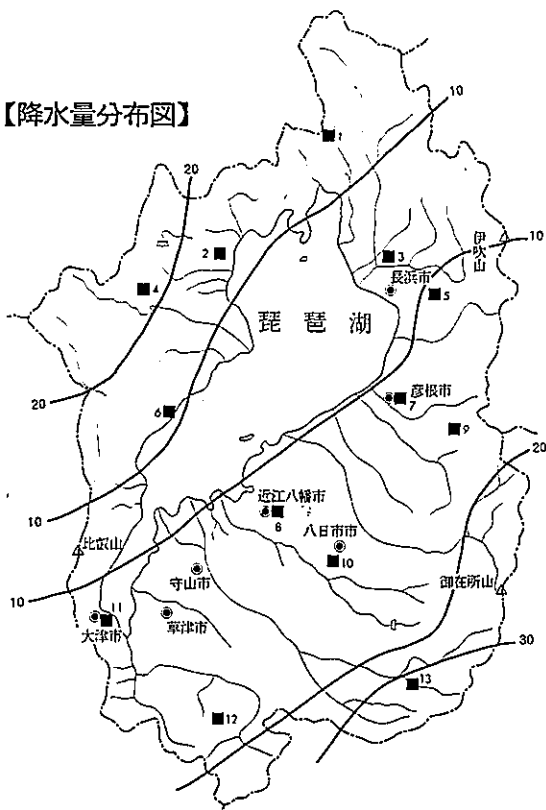
【10月22日午後9時の天気図】



イ. 降雨の状況

22日の総雨量では、土山町で34mm、朽木村荒川で29mmを記録した。

【降水量分布図】



【气象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	21日	22日
1	柳ヶ瀬	—	19
2	今津	—	12
3	虎姫	—	7
4	荒川	—	29
5	春照	—	13
6	北小松	—	12
7	彦根	—	10
8	近江八幡	—	13
9	霜ヶ原	—	12
10	蒲生	—	13
11	大津	—	11
12	信楽	—	13
13	土山	—	34

ウ. 気象官署のとした処置

(ア) 予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
風雨注意報	22日午後0時	切替
強風注意報	23日午前5時50分	24日午後4時30分

(イ) 気象情報

台風に関する情報	第1号	22日午後4時30分
----------	-----	------------

エ. 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	22日午後0時	24日午後4時30分

オ. 被害の状況

被害金額

名 称	金 額 (千円)
農 産 被 害	70
〈 被 害 総 額 〉	70

2 . 豪 雨

(1) 豪雨の状況

春の低気圧による大雨にはじまり、梅雨期の前線による大雨、夏から秋にかけての台風による大雨、さらに秋雨前線による大雨など、本年もまた下記のように数多くの大雨・集中豪雨が発生した。なお、一般的に大雨の少ない北海道地方で大規模な大雨があったことは特異なことであった。

なお、西日本での主な豪雨は、次の通りである。

月 日	場 所	主 な 原 因
6月25日から30日	九州から北陸地方	前線が日本付近に停滞し、前線上を低気圧が通過したため。
7月2日から4日	北陸、山陰、中国地方	梅雨前線の南下による活発化。
7月11日から17日	本州各地	太平洋高気圧に暖かく湿った空気が流れこみ、大気が不安定となったため。
7月30日から31日	東海から九州地方	台風10号の影響。
9月3日から4日	九州、中部、北海道地方	台風18号と台風18号が衰弱した低気圧の影響。
9月25日から27日	九州、東北地方本州各地 本州各地	低気圧が26日本州中部を横切ったため。
九州から東海地方	10月8日から9日	低気圧が日本海北部と山陰・北陸沿いに進んだため。

大雨(6月26日から27日)

(2) 災害の状況

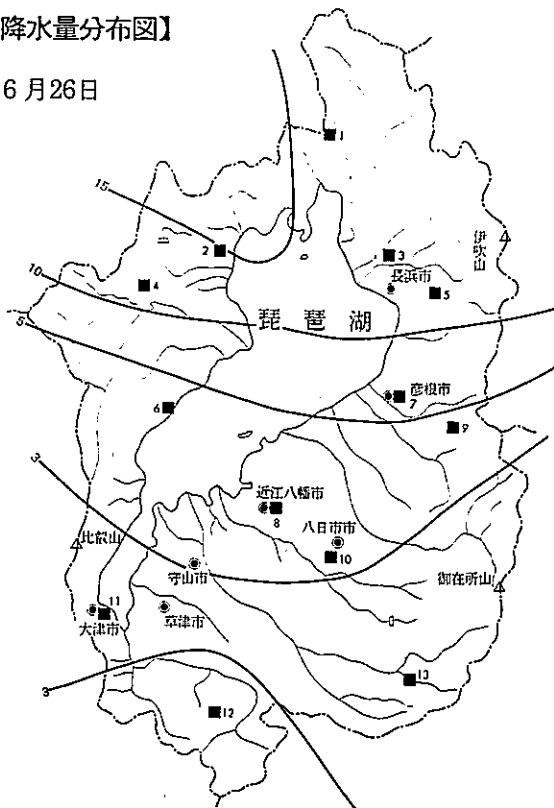
ア. 大雨(6月26日から27日)

(ア) 気象の概要

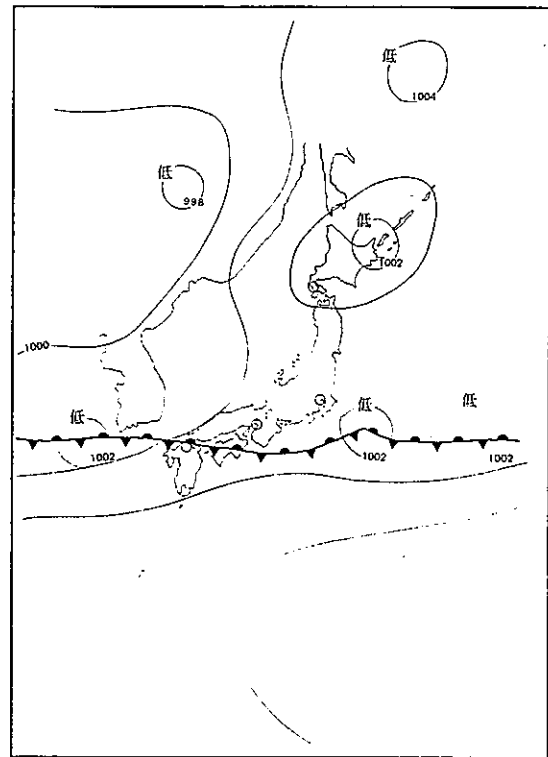
梅雨前線が、西日本上に停滞したため、県下において、今津町、虎姫町を中心に総雨量50mmの豪雨となった。

【降水量分布図】

6月26日



【6月26日午後9時の天気図】



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	26日	27日
1	柳ヶ瀬	14	37
2	今津	16	52
3	虎姫	11	55
4	荒川	11	53
5	春照	12	44
6	北小松	3	46
7	彦根	5	37
8	近江八幡	4	13
9	霜ヶ原	4	17
10	蒲生	3	1
11	大津	2	2
12	信楽	6	4
13	土山	10	1

(イ) 降雨の状況

27日の総雨量では、虎姫町で55mm、今津町で52mmを記録した。

梅雨前線豪雨(7月2日から3日)

(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種	類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水注意報		25日午後5時40分	26日午前8時40分
大雨雷雨注意報		27日午前0時30分	27日午前8時45分
大雨洪水雷雨注意報		28日午前6時10分	28日午前11時40分

(エ) 県の対策状況

種	類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制		25日午後5時40分	26日午前8時40分
第1号警戒体制		27日午前0時30分	27日午前8時45分
第1号警戒体制		28日午前6時10分	28日午前11時40分

(オ) 被害の状況

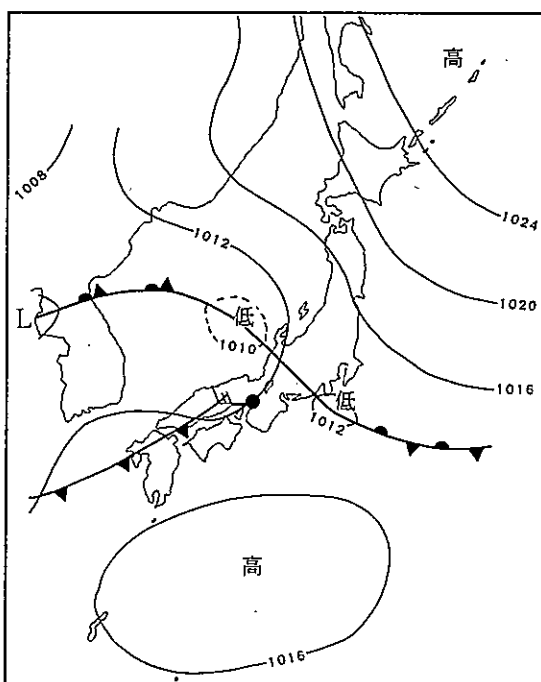
- 田の流失・埋没 : 0.08ha (伊吹町)
 農業用施設被害箇所数 : 8箇所
 農林水産業施設被害総額 : 16,000千円 (伊吹町)

イ. 梅雨前線豪雨(7月2日から3日)

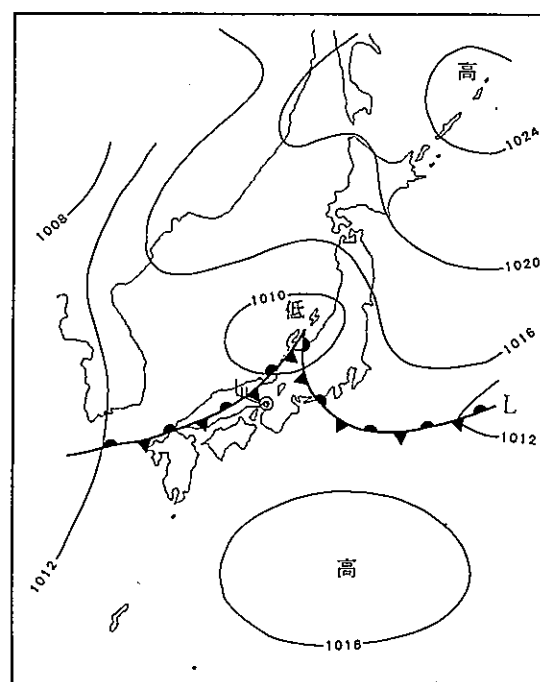
(ア) 気象の概要

西日本に停滞していた梅雨前線は7月2日の午後には活発化しながら日本海側を北上した。県下では2日の午後から北部を中心に強い雨となり、午後6時には今津町で時間雨量が21mmに達した。その後、3日から4日にかけて再び梅雨前線は南下し、西日本に停滞した。このため、3日の早朝より県下全域に雷を伴う強い雨が降った。

【7月3日午前9時の天気図】



【7月3日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

北部と南部で2日の午前11時頃より降り始めた雨は、その後、今津土木、木之本土木事務所の両管内を除いて3時間程度で止んだ。しかし、3日の午前6時頃より再び降雨があり、3日の総雨量は、余呉町柳ヶ瀬で87mm、近江八幡市で56mm、山東町で39mmを記録した。

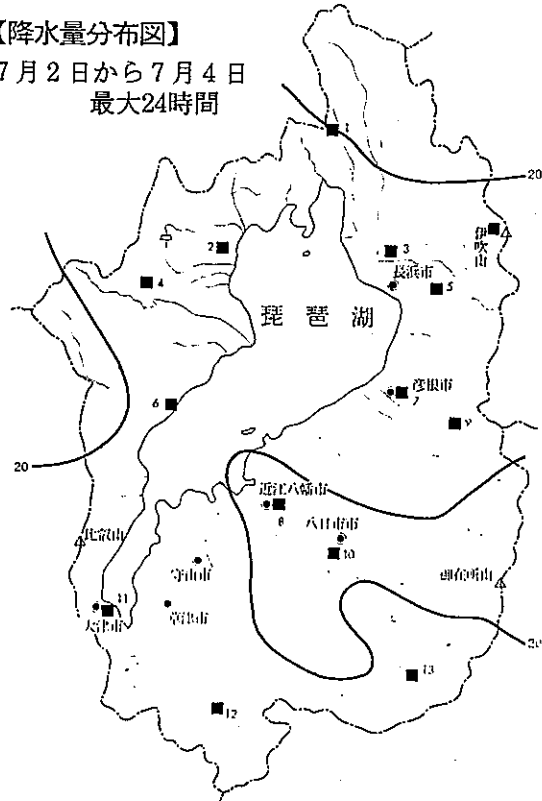
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	2日	3日
1	柳ヶ瀬	37	87
2	今津	32	28
3	虎姫	17	32
4	荒川	24	—
5	春照	22	39
6	北小松	10	30
7	彦根	12	24
8	近江八幡	10	56
9	霜ヶ原	7	26
10	蒲生	3	27
11	大津	4	12
12	信楽	5	16
13	土山	7	38

【降水量分布図】

7月2日から7月4日
最大24時間



(ウ) 出水の状況

高時川、余呉川上流域の中河内、杉野、椿坂に80mmから100mmの降雨があり、木之本土木管内の各河川は警戒水位を突破し、河川施設の被害が発生した。

【主要河川水位表】

河川名	観測所	警戒水位(m)	最高水位(m)	日時
高時川	木之本町 川合	2.7	2.95	3日午前0時

(エ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨洪水雷雨注意報	2日午後4時	警報に切替
大雨洪水警報	3日午前10時55分	注意報に切替
大雨洪水雷雨注意報	3日午後1時50分	4日午前6時40分

(オ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	2日午後4時	2号体制に切替
第2号警戒体制	3日午前10時55分	1号体制に切替
第1号警戒体制	3日午後1時50分	4日午前6時40分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被 災 市 町 村
床下浸水	11	11	27	近江八幡市

b. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	被 災 市 町 村
農業用施設	4	近江八幡市

c. 被害金額

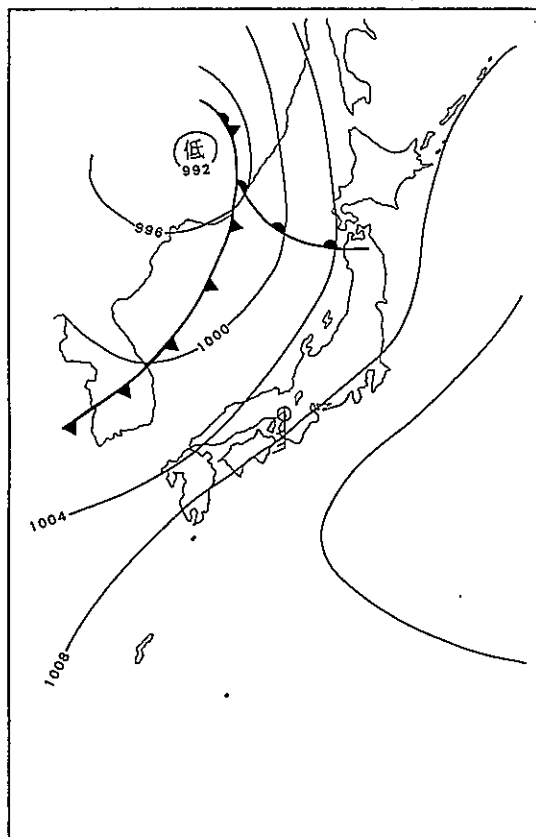
名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	5,000
《 被 害 総 額 》	5,000

【7月9日午後9時の天気図】

ウ. 梅雨前線豪雨(7月9日)

(ア) 気象の概要

8日夕刻より大気の状態が不安定となり、南部を中心に短期的な集中豪雨となった。



(イ) 降雨の状況

雨は9日の午前3時頃より9時頃までの短い時間帯に集中し、瀬田川付近及び草津市街においては、1時間に20mm以上の雨が降った。特に瀬田川付近においては、9日午前4時から5時までの1時間に35mm以上の雨量を記録した。この雨により県道大津信楽線の大津市上田上地先においては道路の法面崩壊や、路肩欠損の被害を生じたため一時不通となった。

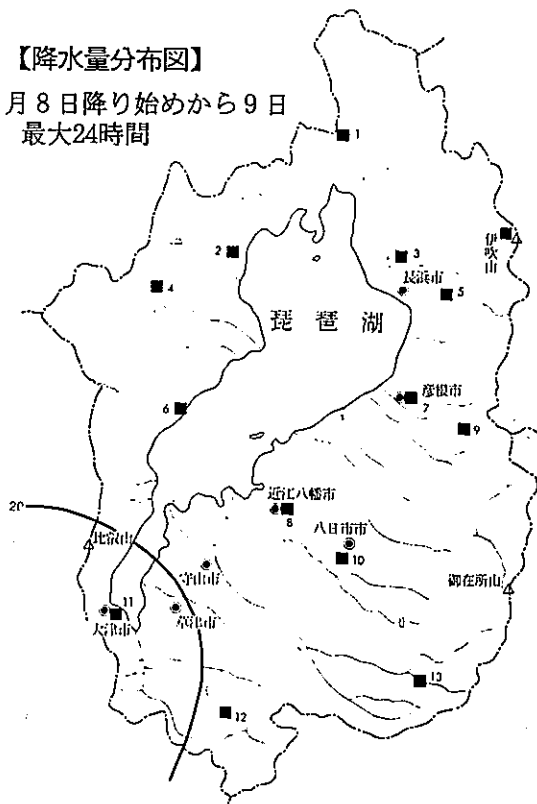
【气象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	9日
1	柳ヶ瀬	6
2	今津	5
3	虎姫	5
4	荒川	5
5	春照	18
6	北小松	8
7	彦根	4
8	近江八幡	2
9	霜ヶ原	3
10	蒲生	17
11	大津	33
12	信楽	8
13	土山	—

【降水量分布図】

7月8日降り始めから9日
最大24時間



(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨雷雨注意報	9日午前4時15分	9日午前7時50分

(エ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	9日午前4時15分	9日午前7時50分

(オ) 被害の状況

a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被災市町村
住家被害	3	3	10	—

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	被災市町村
田	流失・埋没	0.2	余呉町, 大津市
その他	道 路	25	県内各所
	河 川	9	
	砂 防	1	
	農業用施設	10	大津市

豪雨(7月11日から13日)

c. 被害金額

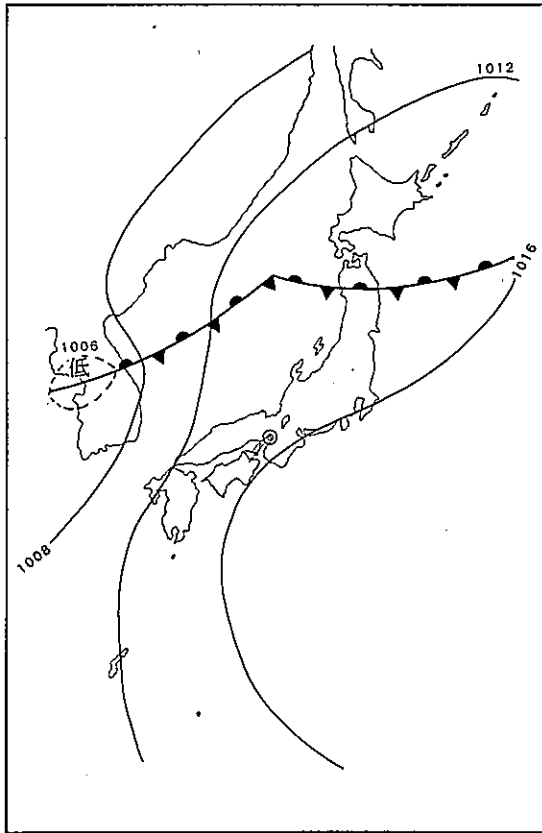
名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	10,000	< 小 計 >	144,288
公共土木施設	134,288	<< 被 害 金 額 >>	144,288

エ. 豪雨 (7月11日から13日)

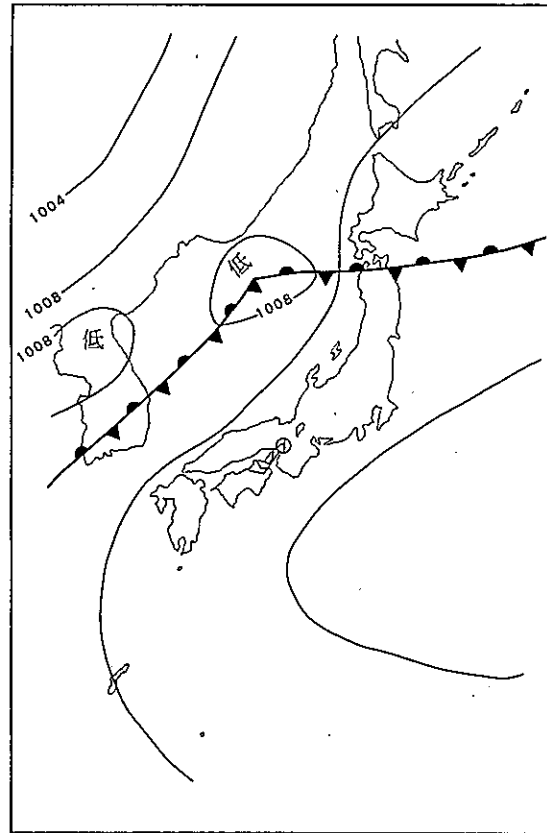
(ア) 気象の概要

9日から15日にかけては、前線はほぼ日本海から東北にかけて停滞気味で、12日午後より大気の状態が不安定となり、南部を中心に短時間の集中豪雨となった。

【7月12日午後9時の天気図】



【7月13日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

雨は、12日午前11時頃から午後9時頃までの時間帯と、13日午後2時頃から午後7時頃までの時間帯に局地的に降った。特に、南部では短時間に局地的な雨が降った。

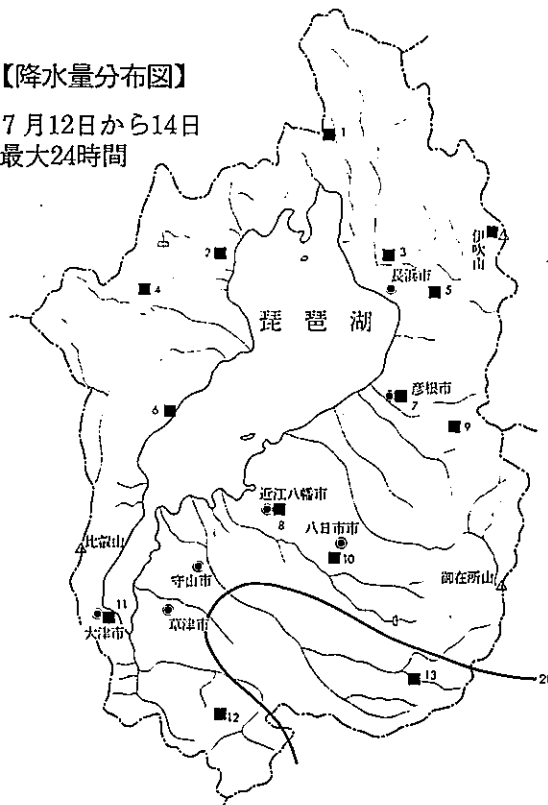
【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	11日	12日	13日
1	柳ヶ瀬	1	2	—
2	今津	22	2	—
3	虎姫	3	1	—
4	荒川	5	4	—
5	春照	17	4	1
6	北小松	14	13	—
7	彦根	8	2	—
8	近江八幡	40	19	—
9	霜ヶ原	41	1	19
10	蒲生	2	9	2
11	大津	29	—	—
12	信楽	11	20	5
13	土山	2	1	6

【降水量分布図】

7月12日から14日
最大24時間



(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨雷雨注意報	12日午後1時20分	12日午後7時20分
雷雨注意報	13日午後1時10分	13日午後8時20分

(エ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	12日午後1時20分	12日午後7時20分
第1号警戒体制	13日午後1時10分	13日午後8時20分

(オ) 被害の状況

a. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	被災市町村
河 川	13	石部町

b. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	1,000
公共土木施設	13,882
< 小 計 >	14,882
<< 被 害 総 額 >>	14,882

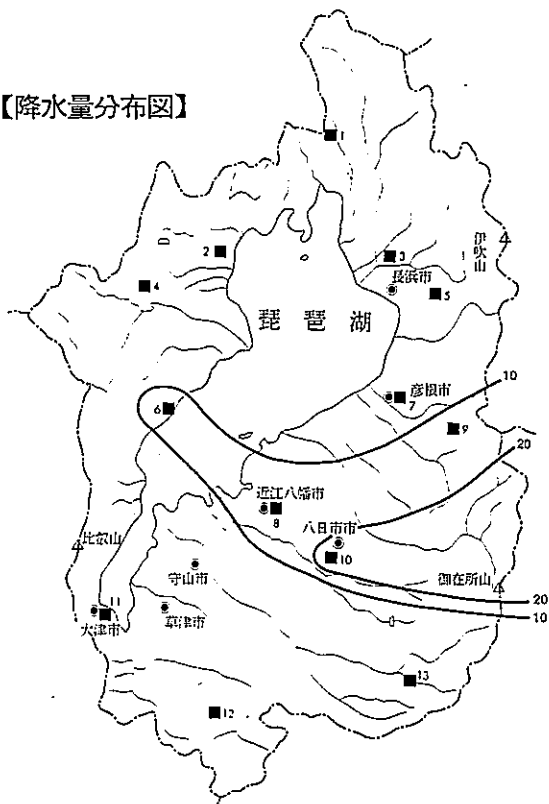
集中豪雨(7月16日)

オ. 集中豪雨 (7月16日)

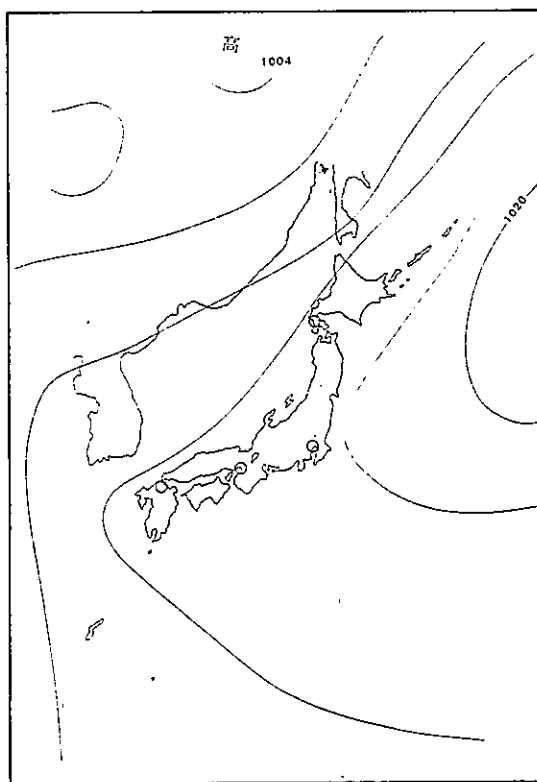
(ア) 気象の概況

15日までの不安定な大気の状態により一転して、太平洋高気圧の圏内にはいり梅雨明けとなったが、一部の地域で強い雨が降った。

【降水量分布図】



【7月16日午前9時の天気図】



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	16日
1	柳ヶ瀬	—
2	今津	—
3	虎姫	—
4	荒川	—
5	春照	—
6	北小松	11
7	彦根	3
8	近江八幡	15
9	霜ヶ原	18
10	蒲生	24
11	大津	2
12	信楽	—
13	土山	—

(イ) 降雨の状況

16日の総雨量では、蒲生町で24mmを記録した。

特に、午後6時から7時にかけて22mmの強い雨が降った。

集中豪雨(7月21日)

(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
雷雨注意報	16日午後4時50分	切替
大雨注意報	16日午後6時20分	16日午後8時50分

(エ) 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	16日午後6時20分	16日午後8時50分

(オ) 被害の状況

田の流失・埋没面積：0.42ha（大津市）

農業用施設被害箇所数：5箇所

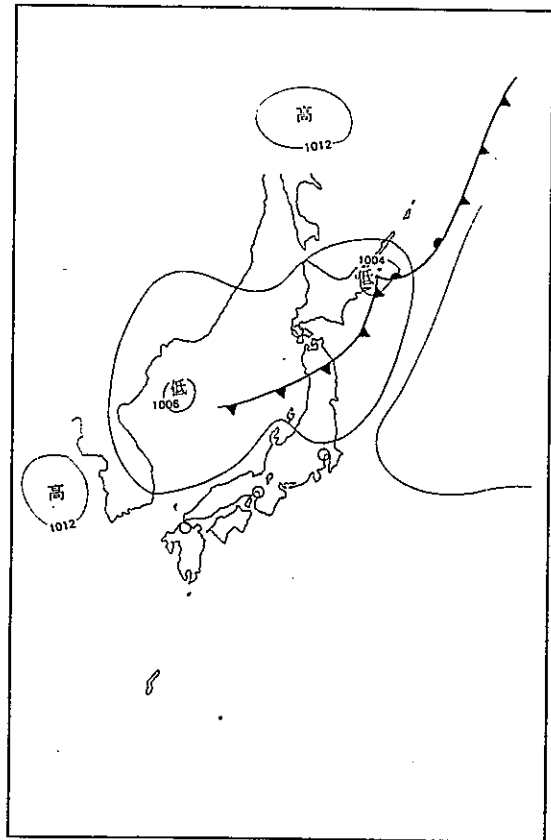
農林水産業施設被害総額：17,000千円

カ. 集中豪雨（7月21日）

(ア) 気象の概要

17日から21日にかけて太平洋高気圧に覆われ、全般的には好天が続いた。しかし19日から21日にかけて上空に寒気が入り、雷を伴う強い雨があった。

【7月21日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

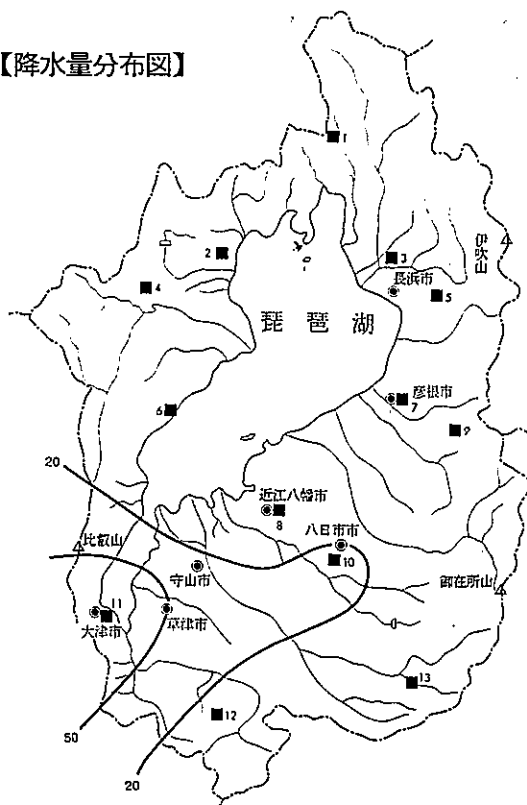
21日の総雨量は大津市で78mm、蒲生町で22mmを記録した。特に大津市においては、21日の午後5時から午後6時にかけての時間雨量が55mmに達した。

【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	21日
1	柳ヶ瀬	—
2	今津	—
3	虎姫	—
4	荒川	—
5	春照	—
6	北小松	7
7	彦根	—
8	近江八幡	1
9	霜ヶ原	—
10	蒲生	22
11	大津	78
12	信楽	18
13	土山	—

【降水量分布図】



(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
雷雨注意報	21日午後4時30分	切替
大雨洪水雷雨注意報	21日午後6時20分	午後9時50分

(エ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	21日午後4時30分	21日午後9時50分

(オ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟,世帯,人)	
住家	床上浸水	26	28	104	大津市(19,19,74),草津市(7,9,30)
	床下浸水	763	763	2,803	大津市(110,110,429),草津市(548,548,1931),守山市(80,80,350),栗東町(25,25,93)

集中豪雨(8月12日)

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	被災市町村
田 流失・埋没	0.2		大津市,草津市,
農業用施設		1	栗東町

c. り災者数・り災世帯数

世帯	人	被災市町村
28	104	草津市,その他

d. 被害金額

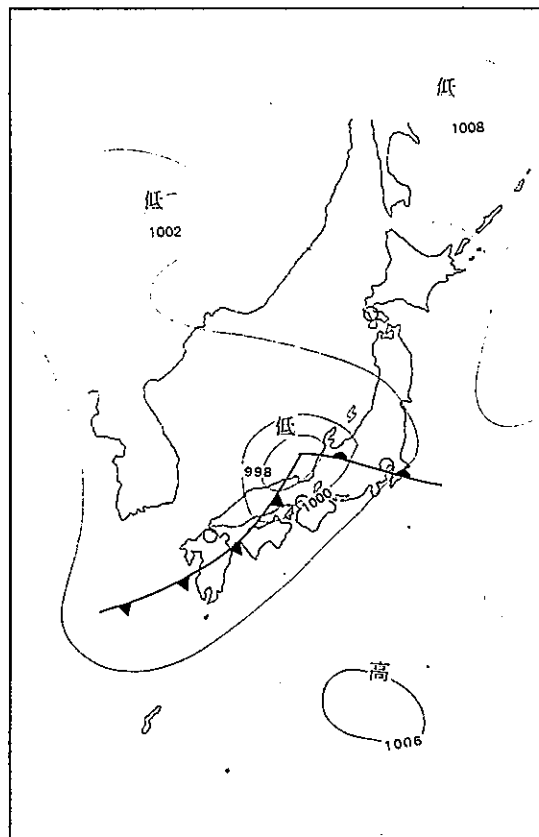
名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	5,000
《 被害総額 》	5,000

キ. 集中豪雨(8月12日)

(ア) 気象の概要

11日から12日にかけて、日本海を低気圧が北東に進み、この低気圧と、前線の通過により、各地で強い雨があった。

【8月11日午後9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

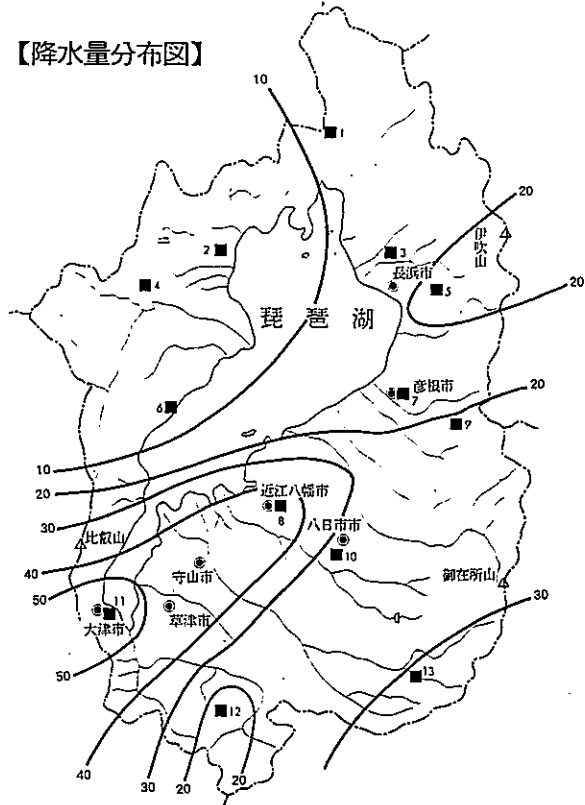
12日の総雨量は、大津市で53mm、近江八幡市で41mmを記録した。
特に午前4時から5時にかけて、大津市で33mmの雨量を記録した。

【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	12日
1	柳ヶ瀬	14
2	今津	7
3	虎姫	15
4	荒川	6
5	春照	26
6	北小松	8
7	彦根	15
8	近江八幡	41
9	霜ヶ原	24
10	蒲生	24
11	大津	53
12	信楽	20
13	土山	34

【降水量分布図】



(ウ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨雷雨注意報	12日午前4時40分	切替
大雨雷雨洪水注意報	12日午前5時25分	12日午前7時45分

(エ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	12日午前4時40分	12日午前7時45分

(オ) 被害の状況

a. 住家被害

名 称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟,世帯,人)
床下浸水	89	89	289	大津市(22,22,82),草津市(67,67,207)

b. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇所	被災市町村
農業用施設	2	大津市

c. 被害金額

農林水産業施設被害総額：13,000千円（大津市）

梅雨前線豪雨(9月4日)

ク. 梅雨前線豪雨(9月4日)

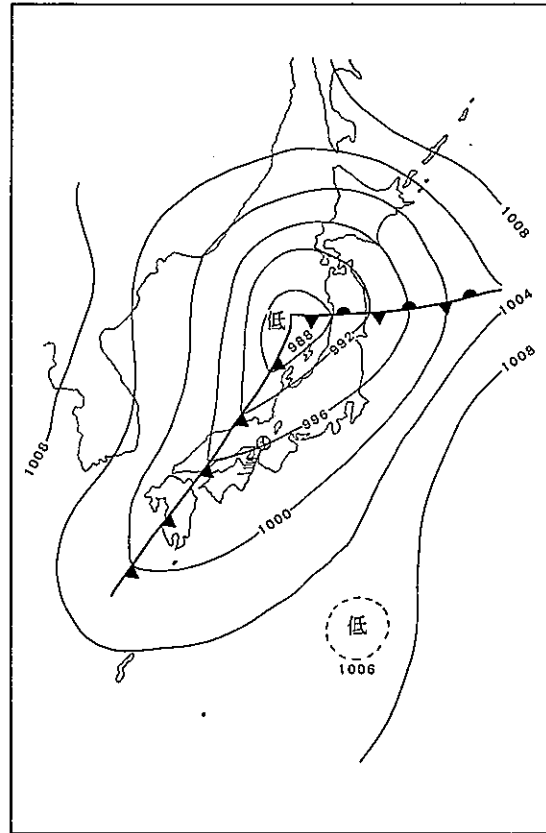
(ア) 気象の概要

台風18号から変わった低気圧は発達しながら北海道付近に達し、この低気圧から延びる寒冷前線が4日午後本県を通過したため、正午から午後3時にかけて県下全域に強い雨をもたらした。特に、南部においては、午後1時から3時の2時間に45mmの雨量を記録した。

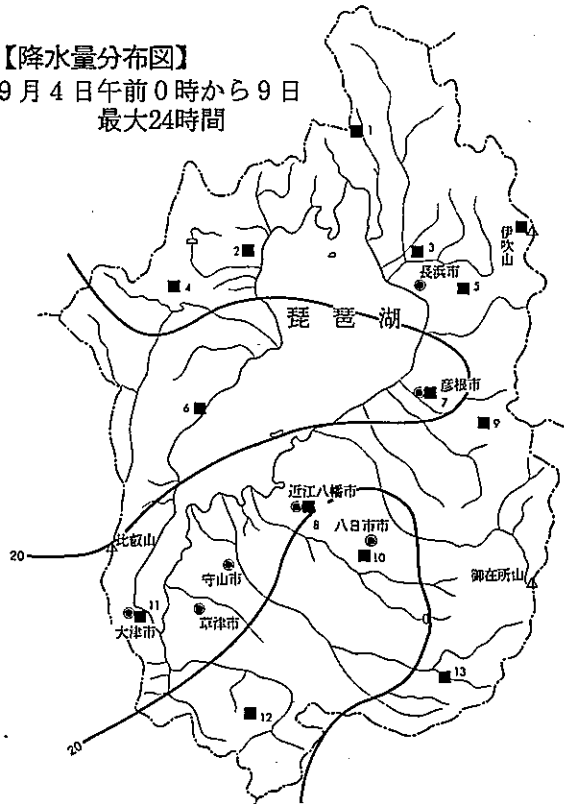
(イ) 降雨の状況

雨は4日の午前6時頃より降り始め、午後4時頃には止んだが、短時間に集中的な豪雨が各地で発生した。強雨域は県下各地を時間経過とともに移動し、午前10時から正午にかけては、大津土木管内北部及び今津土木管内南部に強雨があり、その後、東へ移動し、正午から午後1時にかけては、彦根土木管内の平野部で1時間に23mmの雨を記録した。その後、強雨域は南下し、午後1時から2時にかけては、南部の水口土木管内及び八日市土木管内の八日市、日野付近に移った。

【9月4日午前9時の天気図】



【降水量分布図】
9月4日午前0時から9日
最大24時間



【気象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	4日
1	柳ヶ瀬	30
2	今津	27
3	虎姫	31
4	荒川	32
5	春照	24
6	北小松	43
7	彦根	35
8	近江八幡	26
9	霜ヶ原	35
10	蒲生	36
11	大津	26
12	信楽	53
13	土山	19

(ウ) 被害の状況

a. 農林水産・土木関係被害

名 称	箇 所
河 川	14

b. 被害金額

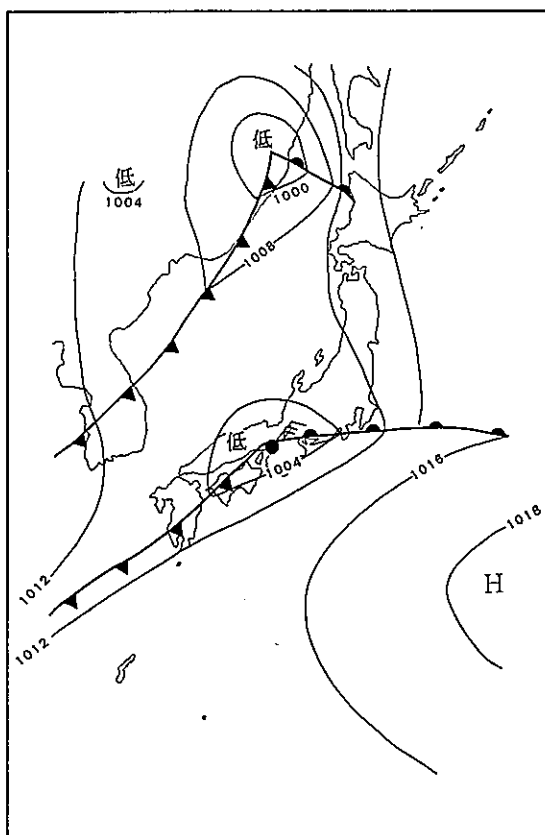
名 称	金 額 (千円)
公 共 土 木 施 設	22,246
《 被 害 総 額 》	22,246

ケ. 豪雨 (10月8日から9日)

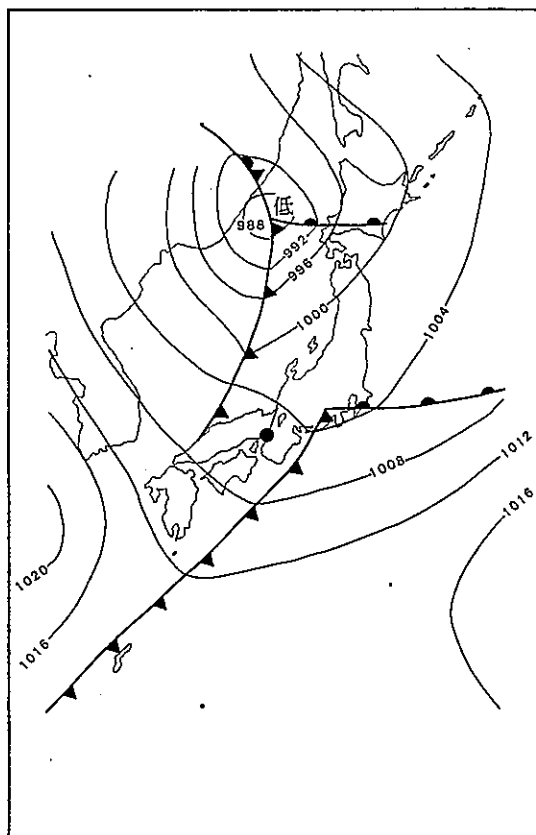
(ア) 気象の概要

7日午後大陸東部に発生した低気圧は、前線を伴い東北東に進み8日朝対馬海峡に達した。低気圧は午後から山陰沖を発達しながら日本海を北東に進み、この低気圧に伴う前線が本県を通過したため、8日午後から9日朝にかけて、県下全域にかなりの雨をもたらした。

【10月8日午後9時の天気図】



【10月9日午前9時の天気図】



(イ) 降雨の状況

雨は南部では8日の午前0時頃より、また、北部では8日の午前2時頃より降り始め、8日の午後6時頃までは時間雨量が10mm以下であった。ところが、8日の午後6時頃から9時頃にかけてと、翌9日の午前5時頃から7時頃にかけての2つの時間帯には、1時間に20mm以上の雨が降った。これは、主として南部であり、大津土木事務所管内の平地部では、8日の午後8時から9時にかけての時間雨量は21mmであった。また、9日の午前5時頃から午後7時頃にかけては草津土木事務所管内全域、八日市土木事務所管内の山地部で強い雨が降り、強い雨の区域は西から東へと移動した。この豪雨は9日の午前10時頃には終わった。

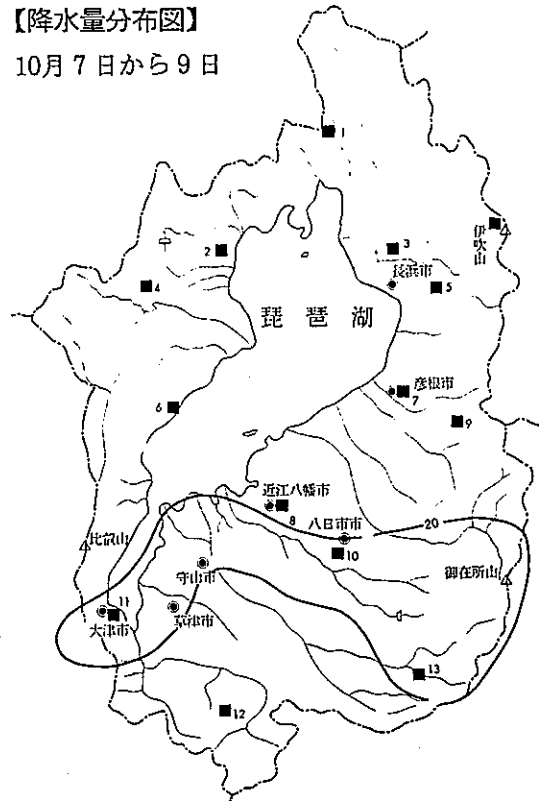
【气象台観測所雨量】

単位(mm)

No.	観測所	8日	9日
1	柳ヶ瀬	51	34
2	今津	48	16
3	虎姫	42	31
4	荒川	40	22
5	春照	67	36
6	北小松	89	26
7	彦根	89	37
8	近江八幡	133	34
9	霜ヶ原	85	49
10	蒲生	76	77
11	大津	117	55
12	信楽	55	58
13	土山	55	60

【降水量分布図】

10月7日から9日



(ウ) 出水の状況

河川の出水は南部で特に著しく、各地で警戒水位を超えた。特に河川の増水の著しかった区域は草津土木事務所管内で、主な河川の最高水位とその起時及び警戒水位は次の通りである。

【主要河川水位表】

河川名	観測所		警戒水位(m)	最高水位(m)	日 時
草津川	草津市	旭橋	0.8	1.85	9日午前7時
童子川	野洲町	童子川橋	1.8	2.25	8日午後9時
					9日午前0時

(エ) 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
大雨強風注意報	8日午前11時25分	警報に切替
大雨警報	9日午前6時25分	注意報に切替
強風注意報	9日午後2時	10日午前5時55分

(オ) 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	8日午前11時25分	2号体制に切替
第2号警戒体制	9日午前6時25分	1号体制に切替
第1号警戒体制	9日午後2時	10日午前5時55分

(カ) 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟,世帯,人)	
住家	床上浸水	6	4	13	近江八幡市
	床下浸水	121	114	412	大津市(8,8,26),近江八幡市(52,46,188),草津市(45,45,138), 守山市(2,2,5),石部町(11,11,44),安土町(3,2,11)

b. 農林水産・土木関係被害

区分・名称	ha	箇所	戸
田 冠 水	190.7		
そ の 他	道 路	56	
	橋 り よ う	1	
	河 川	236	
	砂 防	12	
	鉄 道 不 通	1	
	農 業 用 施 設	98	
停 電			200

c. り災者数・り災世帯数

世帯	人	被災市町村
4	13	—

d. 被害金額

名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	113,000
公共土木施設	1,542,177
< 小 計 >	1,655,177
農 産 被 害	10,060
《 被 害 総 額 》	1,665,237

3. 雪 害

(1) 豪雪(1月から2月)

ア. 気象の概要

前年の12月27日から28日にかけて日本海北部を通過した低気圧が、北海道の南東海上を発達しながら東に進むにつれ、冬型の気圧配置が強くなり、27日から30日にかけて寒気が流入した。本県では26日の夜半頃から北部の山間部を中心に降雪が続き、さらに、29日の夜半前から翌30日の朝にかけては、北部はほとんど全域大雪となり、平野部の彦根では30日の午前9時の積雪が20cmになった。このあと、平野部の雪は小止みとなったが、山間部の降雪はなお続き、余呉町柳ヶ瀬では31日の午前9時の積雪が145cmに達した。

12月31日から翌1月1日にかけては、移動性高気圧におおわれて、北部の山間部の大雪も止んだ。

しかし、1月1日の夜から3日にかけて低気圧が日本海を通過したあと、再びバイカル湖方面の高気圧が日本付近に張り出し、7日頃まで強い冬型の気圧配置が続いた。このため、北部では3日の夜半頃から大雪となり、北部の山間部で降り始め、次第に平野部におよんでいった。余呉町柳ヶ瀬では5日から6日にかけて降雪が激しく、6日午前9時には積雪は230cmに達した。

一方、彦根では6日の夜から翌7日の朝にかけて降雪が強まり、午前9時には積雪が11cmに達した。

その後、冬型の気圧配置は8日から10日にかけて一時的に弱まり、北部の降雪は小康状態になった。しかし、11日から三陸沖で低気圧が発達したのに伴い、冬型の気圧配置が強まって、11日午前9時頃には寒気が流れ込み、北部では全般に大雪となり、山間部では積雪が3mを超える所もでた。

また、比較的深い気圧の谷が15日の夜に通過したあと、16日の朝には南部でも所々で5cm前後の積雪があった。

その後、18日には、日本海南部と南海上を低気圧が東に進み、冬型の気圧配置が崩れ、北部の積雪も減少した。

しかし、20日から21日にかけて、西日本の上空を弱い気圧の谷が通過したあと、一時的に冬型の気圧配置が強まり、北部では、20日から21日にかけて、主に山間部で降雪が強まったが、翌22日には雪も弱まった。

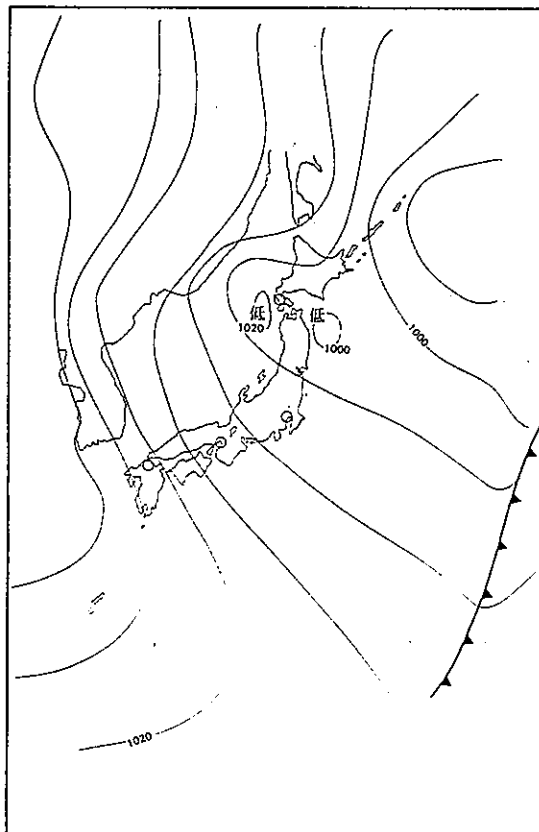
この間の最深積雪は柳ヶ瀬で15、16日の350cm、彦根でも14日の35cmであった。また、伊吹山測候所では14日820cmを観測した。これは1月の積雪としては第4位の記録で、36年ぶりとなった。

一方、21日の夜から翌22日の朝にかけては、西日本の上空の気流が西よりから北西よりに変化し、南部で大雪となった。

イ. 降雪の状況

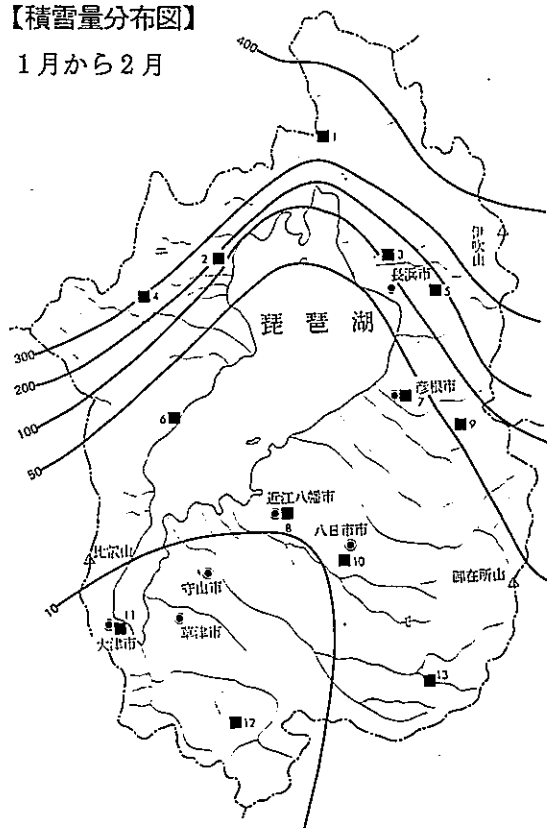
今年の降雪の特色は、4、5日ぐらいの間隔を
 においては、間欠的に降雪が強まるといったも
 ので、とりわけ、1月3日から17日にかけては、
 昨年末からの根雪の上に、1回の大雪が3、4日
 続き、これが2回繰り返されては、まれにみる
 大雪となった。

【2月26日午前9時の天気図】



【積雪量分布図】

1月から2月



【気象台観測所積雪量】

単位(cm)

No.	観測所	26日	27日	28日
1	柳ヶ瀬	260	260	260
2	今津	25	20	35
3	虎姫	38	45	41
4	荒川	—	—	—
5	春照	48	65	65
6	北小松	—	2	8
7	彦根	10	11	20
8	近江八幡	—	0	0
9	霜ヶ原	—	—	—
10	蒲生	—	—	—
11	大津	—	1	0
12	信楽	—	—	—
13	土山	—	—	1

単位(cm)

No.	観測所	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
1	柳ヶ瀬	145	130	110	140	160	230	230	230	210	190
2	今津	23	20	14	14	17	15	35	30	20	17
3	虎姫	22	21	20	25	29	65	78	68	45	40
4	荒川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	春照	40	40	30	25	37	60	95	88	78	67
6	北小松	—	—	—	—	—	—	3	0	—	—
7	彦根	3	2	0	0	—	0	11	9	4	2
8	近江八幡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	霜ヶ原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	蒲生	—	—	—	—	—	—	0	—	—	—
11	大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
12	信楽	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13	土山	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

No.	観測所	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
1	柳ヶ瀬	220	250	290	320	350	350	310	310	300	295
2	今津	33	29	35	65	64	65	75	80	75	65
3	虎姫	85	87	100	140	140	120	115	113	100	93
4	荒川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	春照	65	110	120	155	150	130	137	125	122	115
6	北小松	—	—	—	2	0	2	9	0	—	—
7	彦根	0	20	12	35	28	20	30	26	23	11
8	近江八幡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	霜ヶ原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	蒲生	—	—	—	—	—	1	0	—	—	—
11	大津	—	—	—	—	—	0	—	—	—	—
12	信楽	—	—	—	—	—	5	3	0	—	—
13	土山	—	—	—	—	—	3	0	—	—	—

No.	観測所	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	31日
1	柳ヶ瀬	310	310	300	290	285	280	270	275	265	265	260
2	今津	87	85	85	75	70	65	78	80	70	65	60
3	虎姫	115	113	95	85	65	65	63	70	65	62	60
4	荒川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	春照	131	125	119	112	100	96	95	98	94	93	92
6	北小松	—	19	22	0	—	2	12	0	—	2	0
7	彦根	10	19	15	9	5	3	1	2	0	—	—
8	近江八幡	—	15	0	—	—	—	5	0	—	—	—
9	霜ヶ原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	蒲生	—	8	5	0	—	—	4	1	0	2	0
11	大津	—	—	—	0	—	—	3	0	—	—	—
12	信楽	—	8	2	1	0	—	6	2	0	—	—
13	土山	—	13	2	0	—	—	8	2	0	1	0

ウ. 気象官署のとした処置

1月	種 類	回数	日 時
	大雪警報	3回	7日,11日,14日
大雪注意報	11回	4日,5日,6日,7日,11日(2),13日,14日,15日,16日,21日	
風雪注意報	2回	3日,10日	
なだれ注意報	24回	2日,3日,4日,5日(2),6日,7日(2),8日,10日,11日(3),13日,14日(2),15日,16日,17日,21日,22日,24日,31日	
大雪注意報	3回	11日,14日(2)	

2月	種 類	回数	日 時
	大雪警報	1回	26日
大雪注意報	4回	1日,3日,25日,27日	
風雪注意報	6回	1日,4日,10日,25日,26日,27日	
風雨注意報	1回	16日	
異常低温注意報	3回	26日(2),27日	
なだれ注意報	22回	1日(3),2日,3日,4日(2),10日,11日,15日(2),16日,17日(2),24日,25日(2),26日(2),27日(2),28日	

3月	種 類	回数	時 刻
	風雨注意報	1回	24日
風雪注意報	1回	25日	
なだれ注意報	7回	10日(2),15日,16日,24日,25日,26日	

エ. 県の対策状況

県では1月13日午後5時、災害対策基本法に基づき豪雪対策本部を設置した。

● 豪雪対策本部設置市町

長浜市・木之本町・西浅井町・余呉町・高月町・浅井町・伊吹町・山東町・びわ町・近江町・米原町・湖北町・虎姫町・マキノ町・今津町・新旭町の1市15町

● 関連事項

原国土庁長官を団長とする昭和56年豪雪対策本部の政府調査団一行が1月20日に来県し、北部の豪雪地帯を視察した。

オ. 被害の状況

(ア) 住家被害

区分・名称		棟	世帯	人	被災市町村 (棟,人)
人的被害者	死者			5	浅井町(1), 湖北町(2), 余呉町(1), 今津町(1)
	重傷			40	長浜市(4), 山東町(2), 伊吹町(3), 米原町(3), 近江町(1), 浅井町(9), 虎姫町(1), 高月町(3), 木之本町(6), 余呉町(5), 西浅井町(2), 新旭町(1)
	軽傷			51	長浜市(3), 山東町(3), 伊吹町(2), 米原町(1), 近江町(1), 浅井町(7), 虎姫町(2), びわ町(2), 高月町(14), 木之本町(8), 余呉町(7), 新旭町(1)
住家被害	全壊	14	14	28	長浜市(1), 浅井町(4), 木之本町(2), 余呉町(7)
	半壊	65	63	174	山東町(5), 伊吹町(2), 浅井町(15), 虎姫町(1), 高月町(21), 木之本町(11), 余呉町(10)
	一部損壊	4,112	3,900	15,864	永源寺町(1), 多賀町(39), 長浜市(433), 山東町(220), 伊吹町(305), 米原町(147), 近江町(101), 浅井町(771), 虎姫町(122), 湖北町(217), びわ町(76), 高月町(450), 木之本町(654), 余呉町(357), 西浅井町(87), マキノ町(65), 今津町(40), 高島町(6), 新旭町(21)
	床下浸水	558	543	2,221	長浜市(9), 山東町(4), 近江町(98), 浅井町(2), 高月町(410), 木之本町(13), 西浅井町(22)
非住家	公共建物	156			多賀町(2), 山東町(14), 伊吹町(5), 近江町(5), 浅井町(52), 虎姫町(1), 湖北町(9), びわ町(2), 高月町(1), 木之本町(20), 余呉町(29), 西浅井町(6), マキノ町(2), 今津町(7), 高島町(1)
	その他	1,728			多賀町(1), 長浜市(52), 山東町(99), 伊吹町(45), 近江町(22), 浅井町(505), 虎姫町(85), 湖北町(128), びわ町(16), 高月町(291), 木之本町(12), 余呉町(305), 西浅井町(46), マキノ町(83), 今津町(25), 高島町(1), 新旭町(12)

(注) 住家, 非住家の市町村名の後の()内の数字は棟数である。

(イ) 農林水産・土木関係被害

名称	箇所	回線	戸	被災市町村 (箇所)
学校	91			長浜市(12), 山東町(3), 伊吹町(9), 米原町(7), 近江町(2), 浅井町(29), 湖北町(5), びわ町(1), 高月町(1), 木之本町(8), 余呉町(6), 西浅井町(3), マキノ町(5)
病院	5			湖北町(1), 西浅井町(3), マキノ町(1)
道路	9			高月町(2), 西浅井町(1), 県管理(6)
橋りょう	1			西浅井町
河川	16			西浅井町(1), 県管理(15)
水道	78			多賀町(10), 長浜市(19), 浅井町(13), 湖北町(15), 西浅井町(6), マキノ町(15)
清掃施設	5			西浅井町
崖くずれ	23			湖北町(2), 余呉町(20), マキノ町(1)
通信被害		1,700		県内各所
停電			2,618	県内各所

(ウ) り災者数・り災世帯数

名 称	世帯	人	被 災 市 町 村
り災世帯数	77		長浜市(1),山東町(5),伊吹町(2),浅井町(18),虎姫町(1),高月町(21),木之本町(12),余呉町(17)
り災者数		202	長浜市(6),山東町(19),伊吹町(3),浅井町(45),虎姫町(3),高月町(52),木之本町(38),余呉町(36)

(エ) 被害金額

名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
公立文教施設	780,308	林 産 被 害	2,059,827
農林水産業施設	388,294	畜 産 被 害	2,317
公共土木施設	253,039	水 産 被 害	18,500
その他の公共施設	489,001	商 工 被 害	1,072,130
< 小 計 >	1,910,642	そ の 他	64,302
農 産 被 害	623,083	< 被 害 総 額 >	5,750,801

(オ) その他の状況

a. 消防機関の状況

消防機関の 活動状況	(多賀町)除雪の都度消火栓上の除雪など水利確保に努める 消防施設の除雪 町道危険箇所及び大字区施設の除雪 母子、独居老人家庭の屋根除雪
	(余呉町)出勤延べ人数680名 母子、独居老人家庭の屋根除雪 予防活動

b. その他機関の状況

機 関 名	被 害 の 概 要	被害額(千円)	備 考(主な被害地など)
農林水産省大阪管林局 大津管林署 敦賀管林署	立木の折損等 308m ² 立木の倒伏等 381ha 林地崩壊 0.45ha 林道路肩等 5箇所 建物1箇所	2,682 24,953 40,500 50,078 計118,213	余呉町,木之本町,マキノ町, 今津町,高島町,伊吹町,多 賀町,土山町
建設省近畿地方建設局 滋賀国道工事事務所	防護柵損壊 600m	8,000	除雪費用等 256,500千円
日本国有鉄道 新幹線総局	県内分として分類することは困難 運休本数 26本		除雪費用 47,520千円 電車床下雪落し費用32,598千円
金沢鉄道局 名古屋鉄道局 大阪鉄道局	北陸本線米原以北 1月14日から1月16日まで 湖西線近江今津以北 1月11日から1月21日まで 東海道本線米原以东 1月14日から1月15日朝まで 《全面運行規制》		全鉄道局全体として除雪770 百万円、施設修繕その他 1,694百万円の被害
日本放送協会 大津放送局	テレビ共同受信施設の アンテナ破損 幹線同軸ケーブルの切断 支柱の倒壊など	約4,500	一般家庭のアンテナ破損は 湖北で約2,000件発生した。
日本道路公団 名古屋管理局	閉鎖 彦根管内 名神16回62 ^h 15 ^m 北陸 9回75 ^h 20 ^m 栗東管内 名神11回35 ^h 33 ^m		雪氷対策費用として使用 彦根管内 51,700千円 栗東管内 56,000千円
日本電信電話公社 滋賀電気通信部	障害件数 1,700件 設備被害総額	87,900	彦根局,長浜局,今津局,木 之本局
関西電力株式会社 滋賀支店	供給支障14回線(2618戸の停電)		

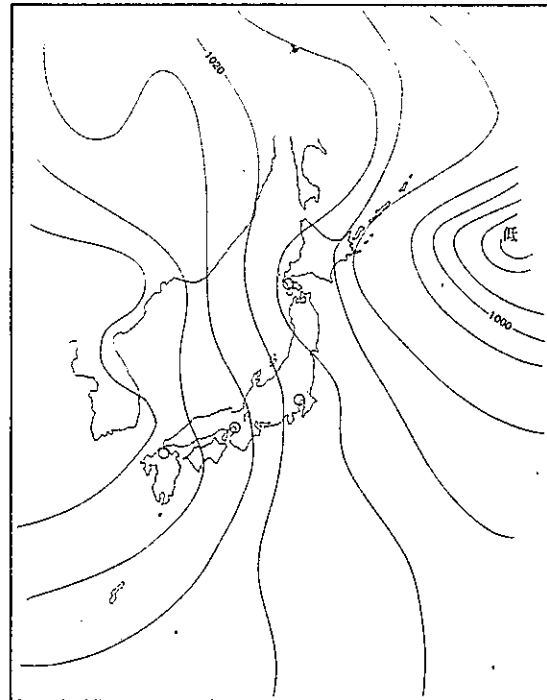
大雪(12月2日から3日)

(2) 大雪 (12月2日から3日)

ア. 気象の概要

1日朝、日本海南部に発生した低気圧は発達しながら東に進んで、2日朝には東北地方南部を通過して三陸沖に達した。この低気圧は三陸沖をさらに発達しながら東北東に進み、午後9時には中心気圧984mbとなった。この低気圧の発達により日本付近は冬型の気圧配置が強まり強い寒気が流れ込み、3日前半までこの冬型が続いた。このため本県南部では50cmを越す大雪となった。

【12月2日午後9時の天気図】

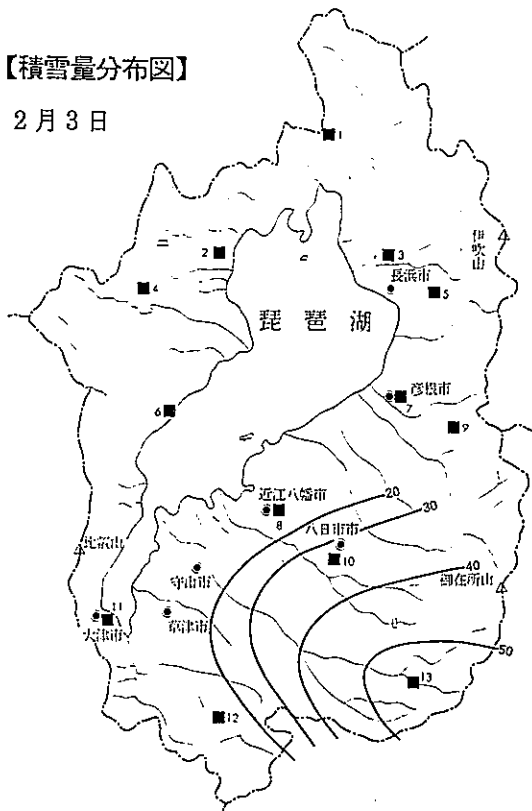


イ. 降雪の状況

3日の午前9時の積雪量では、土山町で52cm、蒲生町で37cmを記録した。

【積雪量分布図】

2月3日



【气象台観測所積雪量】

単位(cm)

No.	観測所	2日	3日
1	柳ヶ瀬	—	6
2	今津	1	18
3	虎姫	0	0
4	荒川	—	—
5	春照	3	0
6	北小松	1	2
7	彦根	0	0
8	近江八幡	3	18
9	霜ヶ原	—	—
10	蒲生	4	37
11	大津	5	15
12	信楽	8	15
13	土山	10	52

ウ. 気象官署のとした処置

予警報の発令状況

種 類	発 令 時 刻	解 除 時 刻
雷雨注意報	2日午前4時30分	切替
強風大雪注意報	3日午前3時40分	3日午前10時15分

エ. 県の対策状況

種 類	配 備 時 刻	解 除 時 刻
第1号警戒体制	2日午前4時30分	3日午前10時15分

オ. 被害の状況

被害金額

名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
農 産 被 害	11,691	畜 産 被 害	6,800
林 産 被 害	11,366	《 被 害 総 額 》	29,857

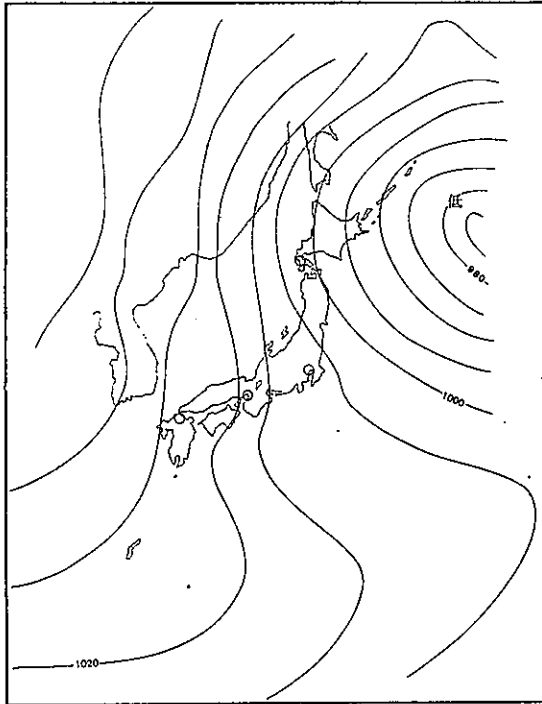
大雪(12月13日から15日)

(3) 大雪 (12月13日から15日)

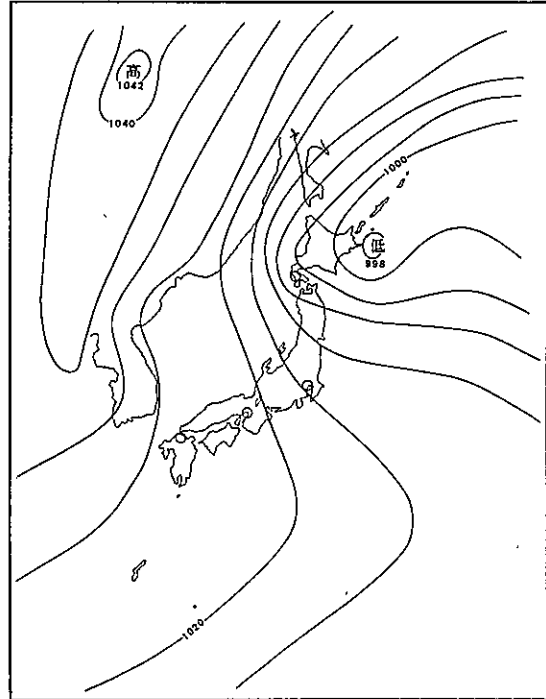
ア. 気象の概要

13日から15日にかけてオホーツク海南部に発達した低気圧がとどまったため、12日頃から冬型の気圧配置が強まり、北部から中部にかけて大雪となった。

【12月13日午後9時の天気図】



【12月15日午前9時の天気図】



イ. 降雪の状況

15日の午前9時の積雪量では、今津町で62cm、山東町で50cmを記録した。

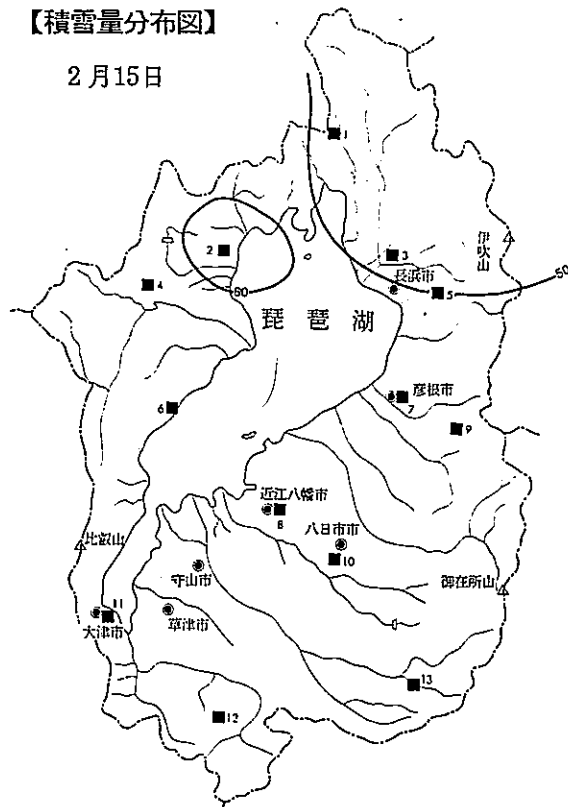
【気象台観測所積雪量】

単位(cm)

No.	観測所	13日	14日	15日
1	柳ヶ瀬	1	18	43
2	今津	—	41	62
3	虎姫	—	8	40
4	荒川	—	—	—
5	春照	—	10	50
6	北小松	—	5	8
7	彦根	—	8	25
8	近江八幡	—	4	2
9	霜ヶ原	—	—	—
10	蒲生	—	9	2
11	大津	—	0	0
12	信楽	—	—	—
13	土山	—	7	2

【積雪量分布図】

2月15日



ウ. 気象官署のとした処置

a. 予警報の発令状況

種 類	発令時刻	解除時刻
風雪注意報	13日午前6時30分	切替
大雪注意報	14日午前7時15分	警報に切替
大雪警報	14日午後4時	注意報に切替
大雪強風雪なだれ注意報	15日午前6時15分	切替
なだれ注意報	16日午前5時30分	20日午後6時

b. 気象情報

大雪に関する情報	第1号	14日午後6時15分
大雪に関する情報	第1号	14日午後9時40分
大雪に関する情報	第1号	15日午前11時30分

エ. 県の対策状況

種 類	配備時刻	解除時刻
第1号警戒体制	13日午後6時30分	2号体制に切替
第2号警戒体制	14日午後4時	1号体制に切替
第1号警戒体制	15日午前6時15分	20日午後6時

オ. 被害の状況

a. 住家被害

区分・名称	棟	世帯	人	被災市町村 (棟,世帯,人)	
住家	一部損壊	391	386	1,281	豊郷町(75,75,204),甲良町(145,140,405),多賀町(147,147,566),米原町(6,6,25),近江町(10,10,48),マキノ町(2,2,9),今津町(1,1,4),高島町(5,5,20)
	床下浸水	3	3	14	甲良町(1,1,3),近江町(2,2,11)
非住家	その他	3		県内各所	

b. その他

名 称	回線	戸	被災市町村
通信被害	79		多賀町(34),朽木村(45)
停電		1,307	多賀町(1122),朽木村(185)

c. 被害金額

名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
その他の公共施設	3,480	林 産 被 害	1,476,600
< 小 計 >	3,480	畜 産 被 害	1,066
農 産 被 害	90,817	< 被 害 総 額 >	1,571,963

d. その他の状況

消防機関の 活動状況	(近江町)河川にせき止められた雪の除雪作業
	(多賀町)除雪作業による生活道路確保が重点目標のため、団員は消火栓上の除雪作業程度の出勤に留った。

降ひょう(5月31日)

4. ひょう害

降ひょう(5月31日)

(1) 気象の概況

31日に低気圧が日本海中部に進んできたため大気は不安定な状態となり、滋賀県、兵庫県、広島県の一部で降ひょうがあり、農作物等に被害があった。

本県では午後5時ごろ、彦根市周辺で約10分間、ひょう(直径5~6ミリ)が降り農作物やビニールハウスに被害が出た。

(2) 被害の状況

被害総額：8,747千円

主な被害地域：彦根市、能登川町、愛東町

名 称	金 額 (千円)	名 称	金 額 (千円)
農林水産業施設	787	農 産 被 害	7,960
< 小 計 >	787	< 被 害 総 額 >	8,747

ア. 施設被害

市 町 名	施 設 名	被害程度	件 数	被害額 (千円)	備 考
彦根市	ビニールハウス	中 破	1	470	非共同
能登川町	ビニールハウス	小 破	20	317	非共同
合 計			21	787	

イ. 農作物被害

市 町 名	作物名など	面 積 (ha)	減収量 (t)	被害額 (千円)	備 考
彦根市	ばれいしょ	4	8.8	720	
	野 菜	5.1		4,250	
愛東町	野 菜	2.0	7.1	1,300	キュウリ、ナス、トマト、キャベツなど
能登川町	ばれいしょ	0.5	5	190	
	ピーマン	0.3	7.5	750	
	花 き	0.34	15,000本	750	
合 計		12.24		7,960	

5.その他

(1) 異常低温(2月26日から28日)

ア. 気象の概要

25日から28日にかけて、非常強い寒気が流入し、特に26日午後9時には、 -35°C の寒気団が近畿地方北部まで南下したため、各地とも、最低気温の2月の極値をこえる冷え込みとなった。

彦根では25日夕刻頃から気温が氷点下となり、そのまま下がり続けて26日午後8時20分に -5.5°C の最低気温を記録した。伊吹山においては24日夜からその傾向があらわれ、26日午後5時30分に -16.5°C の最低気温を記録、2月の最低気温の極値を更新した。

イ. 被害の状況

(ア) 水道 816箇所(マキノ町、今津町、その他)

(イ) 被害総額	: 178,119千円
公共文教施設被害総額	: 6,988千円
その他の公共施設被害総額	: 13,421千円
農産被害総額	: 151,210千円
水産被害総額	: 6,500千円

(2) 強風(11月2日)

ア. 気象の概況

1日夜上海の南にあった低気圧が発達しながら東北東に進んだため、2日の昼間から夕方にかけて南寄りの強風が吹いた。

イ. 被害の状況

被害総額: 14,084千円

(ア) 施設被害

市町名	施設名	被害程度	件数	被害額(千円)	備考
彦根市	ビニールハウス	全壊	1	2,355	非共同
愛東町	ビニールハウス	全壊	2	2,531	非共同
	ビニールハウス	中破	1	577	非共同
	ビニールハウス	小破	3	90	非共同
湖東町	ビニールハウス	中破	1	1,350	非共同
	ビニールハウス	小破	2	195	非共同
豊郷町	ビニールハウス	中破	1	1,200	共同
甲良町	ビニールハウス	小破	1	10	非共同
合計			12	8,308	

(イ) 農作物被害

市町名	作物名など	面積 (ha)	被害額 (千円)	備考
彦根市	野菜	0.16	550	イチゴ、春菊
愛東町	野菜	0.61	2,757	
湖東町	野菜	0.40	1,786	
豊郷町	野菜	0.07	683	
合計		1.24	5,776	

(注)この強風での減収量総計は9.2tであった。